発行所 東京都新宿区新宿7-17-18
戸山マンション241号 〒160
社団法人 大学婦人協会
電話 03－3202－0572
FAX 03－3202－0830
振替 東京 5-173434
編集兼発行人 牛頭栄子
発行日 平成3年6月20日

JAUW

おもな記事

1面 第34回通常総会記録，会長挨拶
2面 '91年度文部省補助事業について他
3～5面 '90年度事業報告，'91年度事業計画
6～10面 '90年度支部報告，'91年度支部事業計画，'90年度国庫補助事業決算報告他
別刷 '90年度決算報告，平成2年度特別会計収支報告

第34回通常総会特集

社団法人 大学婦人協会 第34回通常総会記録

日　時：一九九一年四月二日（火）九時～一五時三〇分
場　所：広島市中区　広島全日空ホテル
出 席 者：一七七名 委任状提出者 一、〇八九名　計 一、二六六名
出席支部：小樽・札幌・秋田・新潟・茨城・長野・東京・神奈川・静岡・愛知・京都・奈良・大阪・神戸・岡山・広島・山口・愛媛・大分・熊本・福岡 以上二一支部
欠席支部：函館・仙台・福島・栃木・群馬・岐阜・金沢・福井・高知・長崎・鹿児島 以上一一支部

午前の部

司会　山崎　みね

一　**会議開始**　山崎　みね

一　**総会成立確認**　海老原典子

会議開始時の出席者一二三名、委任状提出者一、〇八九名、計一、二一二名、正会員二、四〇四名の1/3（四八一名）以上により、定款第五章三二条に基づき総会が成立することを確認する。

一　**開会の辞**　会長　中村ミチコ

一　**議長承認**

定款第五章二九条により、中村ミチコ会長が議長となる。　承認

一　**黙禱**

物故会員一六名のご冥福を祈って、一同起立、黙禱

一　**書記選出**　承認

本部　海老原典子
広島支部　川田　ひろ
桧山　洋子
高坪富美子
柏野　光代
丸田　博子

一　報告

1　**総務**　川田　ひろ

「一九九〇年度事業報告」参照

2　**委員会**　各委員長

「一九九〇年度事業報告」参照

3　**国庫補助事業・文部省委嘱事業**　丸山　庸子

本年度は、例年通りの国庫補助事業に加えて、文部省委嘱による婦人の社会参加支援特別推進事業と二つの事業を行なった。

文部省国庫補助事業は、テーマを「開発教育」とし、九支部及び本部委員会（国際第一・教育）による調査・研究を主とし、九月二九日東京・京王プラザホテルにおいて全国セミナーを開催、その成果としての決議事項に基づき要望書を作成し、文部大臣・外務大臣及び総理府婦人問題担当室長宛提出した。

また、婦人の社会参加支援特別推進事業（通常フレッシュサポート）は「女性と開発教育」をテーマとして、国際協力事業団・NGO活動推進センター・日本国際ボランティアセンター・日本汎太平洋東南アジア婦人協会、日本キリスト教女子青年会の協力により事業を実施した。四支部及び本部委員会（国際第二・婦人の地位）による調査・研究のほか、地域集会による啓発活動を主とし、九月三〇日実行委員会の協力により全国フォーラムを東京・京王プラザホテルにおいて開催した。これらの成果報告をもとに「女性と開発教育」の手引を作成、二月末完成し三月広く配布した。参加者は全国セミナー一九一名、全国フォーラム二〇四名であった。

この事業の効果として、地域の新聞に掲載されたり地域集会で発表して好評を得たこと、高校の文化祭で「開発教育」に関する催し物をして賞を得たことなどが報告されている。まだ会員の勤務先の高校・大学などで早速開発教育の問題をとりあげるようになったことが幾つか報告されており、学校教育の場での促進が見られた。

4　**支部**　各支部長

「一九九〇年度事業報告」参照

上記1～4**につき本部・支部「一九九〇年度事業報告」**　承認

5　**会計**　八木　博子

A　**一般会計　一九九〇年度収支決算並びに資産状況**

「一九九〇年度収支決算並びに資産状況」参照

この決算は一九九〇年四月一日～一九九一年三月二五日の収支決算並びに資産状況である。

IFUWの会費については備考に記したように、一人当たり九スイス・フランで二〇二〇名である。一スイス・フランが一〇五円五三銭の時期（一二月）に送ったので予算を超過した。

B　**特別会計**

「平成二年度国庫補助事業『開発教育』特別会計収支報告」参照

「平成二年度文部省委嘱婦人の社会参加支援特別推進事業『女性と開発教育』収支決算報告」参照

6　**監査**　岡山　初子

馬場八巻、岡山初子の監査二名で、大学婦人協会の事務所においてあらゆる帳簿、あらゆる記録を監査した結果、非常に丁寧に正確に記載されており、総てにおいて間違いのないことをここに報告する。

一般会計及び特別会計　承認

会長

三月二六日～三一日を加えた正式な決算書は総会後に作成し、改めて監査を受けた上理事会の承認を受けるので、理事会の承認を以て総会の承認にかえさせていただきたい。正式な決算書は六月の会報（JAUW一六二号）に掲載する。　承認

一　審議

1　**新役員選考委員の承認**　会長

役員選考委員会の報告　渡辺登志子

三月の会報（JAUW一六一号）参照

役員選考委員中、一名は都合により、他の一名は任期満了につき、次の二氏を次期役員選考委員候補者として推薦する。

役員選考委員候補者　武市千代子　西山　鈴子　承認

なお、一九八九年一二月の選考委員会のおり山崎みね副会長に留任をねがったところ、山崎氏は辞意を表明したが、会の都合で九〇年度のみでも留任を願いたいと思い、昨年二月の会報（JAUW一五六号）に九〇年度のみと書き添えて留任を願った。今回更に一九九一年度も留任を願いたく、不可能になられた時には代理をおくことにして、更に一年留任を願うことを提案し、承認を得たい。　承認

2　**案**

A　**委員会**　各委員長

「一九九一年度事業計画」参照

国外奨学　根岸　愛子

事業計画にあるように今年度から支給額が増加になった。JAUW国外奨学生に応募する資格はJAUW以外の大学婦人協会の会員であること、研究が日本において独立した研究であること、post-graduateレベルであることで、すでに日本に来ておられる方も応募資格がある。締切りは五月末日である。

B　**支部**　各支部長

「一九九一年度事業計画」参照

右記A・Bにつき委員会・支部「一九九一年度事業計画」　承認

3　**一九九一年度予算案**

「会報一六一号」　参照　五十嵐康子

大学婦人協会は原則として会費で事業を行なうので、本来会員の八〇％の会費収入で予算をたてるのは正常ではない。現実には会費未納者は正会員二四〇四名中六二四名にのぼり全体の二六％で二、四九六、〇〇〇円になる。これは本年度の寄付金収入に匹敵する額であり、全員が完納すれば、寄付金はすべて事業基金に繰り入れることができ、利息も増加して奨学金の増額が可能になり、奨学金を贈呈する人数も増加することができる。なお一名につき四、〇〇〇円の本部会費の内訳は次の通りである。

IFUW会費　一、二二一円
補助事業負担金　一、二六四円
会報　八七一円
管理費その他　二、四〇六円

このように会費は事業を行なう上に大切な役目を果たしている。会員各位が会費で会の運営を支えているという自覚を持って協力して下さることを願う。

一九九一年度予算案原案通り　承認

4　**その他**

VGIFの募金について　会長

（次頁五段へつづく）

会長　中村ミチコ

木々の緑が目にまぶしい、さわやかな新緑の季節になりました。皆様、おすこやかにお過ごしのこととおよろこび申しあげます。

さる四月二日、第三十四回通常総会を広島の全日空ホテルを会場として無事に終了することが出来ました。これに先立ち二日には支部長懇談会および評議委員会、そして、夕には懇親会を開催いたしました。この総会行事が成功裡に終了することが出来ましたことは、ひとえに広島支部長河石様のご指導のもとに一ヵ年にわたる緻密な計画と支部会員のご協力のおかげと存じます。このご尽力に対し、厚くお礼を申しあげます。また、春のうららかな陽をうけながらの瀬戸内海のクルージングと四国めぐりも思う存分、桜の頃の美しい内海を楽しませていただきました。湾岸戦争終結とはいえ、戦争のあとに残った諸々のきびしい問題に直面しているこの時期に、会員が広島に集まり、平和記念資料館、江田島の教育参考館等を訪ね、会員一同、平和維持について一層強く感じ、何か私どもがしなければならない事をあらためて考えるよい機会をあたえていただいた総会でございました。重ねて、広島支部の皆様に心から感謝申しあげます。

また、全国からお集まり下さいました会員の皆様からもあたたかいご協力をいただき厚くお礼を申しあげます。

さて、総会に於て、平和維持について懇談いたしましたが、突然のことでもございましたため、充分に皆様のご意見を伺うことが出来ませんでした。総会後、四月の理事会の折に、この問題を取りあげて話しあいました。結局、「悲惨な状態に、現在おかれている子どもたちや住民たちの援助に」と、考えがまとまりました。この主旨のためにと特別にご寄付がございましたので、この際、難民援助にあてることになりました。IFUW会長の手紙のこともございますので、まとまりました金額はジュネーブに送金し、IFUWを通して役立てていただくことにいたしました。

支部の皆様にもご案内いたしますがこの目的にご賛同いただきまして、ぜひ、ご協力下さいますようおねがい申しあげます。

一九九五年のIFUW総会については、本年度から青木怜子氏を中心に少数の委員で先ず準備を始めていただくことにいたしました。正式には一九九二年度から準備委員会を発足させて、「日本に於て国際会議開催」という大事業を始めるようにしたいと考えております。会員一同、一層のご協力を願って、すばらしい国際会議が行われるよう、皆様と努力いたしたいと祈っております。

あらためて、IFUWとJAUWの目的と活動のために、皆様の貴重なご支援とご協力を賜わりたく心からおねがい申しあげます。

社団法人 大学婦人協会 第34回通常総会　平成3年4月2日 於・広島全日空ホテル

一九九一年度文部省補助事業について
地球環境保護への取組み
―女性の役割―

企画委員会
委員長　丸山庸子

一九九〇年度は、開発教育の実態調査を主とする国庫補助事業と、その促進のための啓発活動を主とする婦人の社会参加支援特別推進事業の二つを行いました。

開発教育はそれを学ぶ人々に実践を促すものですが、学校教育へは中学・高校・大学などに会員の努力を通じさまざまの導入の報告が寄せられました。しかし社会教育の分野への導入は容易ではなく、今年度はこの面を発展させるべく関係者のお勧めもあって、婦人の社会参加支援特別推進事業の再委嘱を受けることとなりました。今年度は少し規模を縮小し茨城、静岡の二支部がこれを担当し、また別に、開発教育の幼児教育への導入の試みを東京支部会員が担当して継続することとなりました。

さて、今年度の国庫補助事業はこれまで開発に関わるさまざまな問題を通じてその地球規模での相関性を痛感してきた環境の問題を取りあげることにいたしました。今、地球上の全てのものがその資源の枯渇や生態系の崩壊をはらんでいるとの認識から、これを人類の存続をかけた緊急の課題としてあらゆる国、企業、民間の全てがその保全に取り組みつつあります。わが国の世界的な経済活動や地球環境から受けている恵みに鑑み、その対策実施にあたっては、世界的リーダーシップを取るべき立場にあるとの自覚が必要だと考えられています。私たちもこれに歩を揃えて「地球環境保護への取組み－女性の役割」をメイン・テーマとにすることにいたしました。参加の支部では、それぞれの地域で憂慮される課題を選び、科学的認識による実態の把握を通じその改善に向けての実践的な取組みをしていただきたいと思います。そして個人として出来ること、JAUWのなし得ること、また行政へ提言すべきことなどについて地域の方々と話し合いの機会を持っていただきたいと願っています。これまでの快適性や功利性のみの追求から脱し、限りある地球のあらゆる生物の共存を最優先に、環境倫理の上に立った新しいライフサイクルの提言が出来ればと願っています。

企画委員会で選定したサブテーマは次の通りです。

1 国及び各自治体の取組み
・法規制について
・実施状況について（問題点は何か）
2 企業における取組み
・生産段階における対策（河川・空気汚濁防止）
・生産廃棄物の対策（処理・移動・回収について）
3 家庭における取組み
・省エネルギー対策
・食品公害対策（地域・消費者運動の実態について）
・ごみ処理対策（ごみとリサイクル運動の実態について）
・水質保全対策
・フロンガス対策
4 教育とマスコミによる取組み
・学校教育・社会教育における取組み
・マスコミにおける取組み
5 国際的連帯による取組み
酸性雨・地球温暖化・熱帯林減少・海洋汚染・有害廃棄物移動など
6 環境倫理と実践
・地球資源の枯渇
・地球生態系の保全
・企業と共存社会の倫理
・収奪から持続・循環へ
・環境質の向上と科学技術
・行政への提言・JAUWの取組み・個人の実践

環境問題別に列挙したものも少し重複しますがご参考迄に付記しておきます。

地球環境問題の実態とその科学的認識（調査・研究のヒント）
1 大気汚染
フロンガスとオゾン層破壊－紫外線の増大
車公害とNox
化合燃料とCo2－地球温暖化
2 水質汚濁
生活雑排水処理
合成洗剤対策
海洋汚染問題
3 土壌汚染
残留農薬と農産物
ゴルフ場と薬剤散布
DDT・PCB汚染
有害廃棄物の処理・移動
砂漠化の現象
4 森林の消失
酸性雨と森林の減少
人口爆発と森林消失
開発と森林伐採と動植物の絶滅－生態系崩壊
5 先端技術と公害
6 ごみ処理とリサイクル

「環境」に関する全国セミナーは次の通り開催します。

期日　九月二十八日（土）
　　二十九日（日）
場所　東京・京王プラザホテル

「女性と開発教育」に関する地域集会は次の通りです。

1 茨城集会
サンレイク土浦11月30日
サンレイク水戸1月18日
2 静岡集会
静岡総合福祉会館7月18日
沼津労政会館　11月30日
袋井中央公民館11月16日
3 東京集会
こどもの城　11月9日

本年も二つの事業をすることになりますが、詳細は近日中にちらしなどでお知らせします。昨年にも増して沢山のご参加とご協力をお願い申し上げます。

（前頁よりつづく）

Virginia Gildersleeve International Fund for University Women Inc.の募金に応募を願う。

午後の部

一　懇談

司会　丸山庸子

1　一九九一年度事業計画について　丸山庸子

今年度は企画委員長交替のため、これから述べることはおおよその枠である。

本年度も二本だてで、「開発教育」と「環境」について調査・研究をしたい。

A　**「女性と開発教育」**

三月五日文部省で、婦人の社会参加支援特別推進事業の委嘱を受けた全国二二団体の報告会があり、そのおりに当協会は、もう一年「女性と開発教育」のテーマで調査研究の応募を継続してはどうかとの話を受けた。今回は窓口は本部、主体は支部とし、実施を支部に任せることとし、補助金も支部で分割し、支部で大きい会をするとの方針を昨日の支部長懇談会で話したところ、二支部から申し込みを受けた。すでに学校教育に関する素地はかなりできているが、社会教育面が前回不十分であり、本年度はこの面の普及・浸透をテーマとしてはどうかと考えられている。

B　**「環境と開発」**

国庫補助事業の方は「環境と開発」の問題を扱うこととする。「環境」の方は各地域での身近な問題を取り上げ、その環境をどのように変えたら良いかを中心として、具体的なデータに基づいた実践活動を求めて欲しい。「開発」の方はそれ程大掛かりではないがもう少し「開発教育」をやりたい支部が扱うと良いと思う。補助金の額の関係で新規事業として申請している。

2　人材名簿の作成について　山崎みね

これはここ二、三年毎年取り上げている問題であり、女性が政策決定の場に参加するのを促進するために、大学婦人協会の会員の人材名簿を作成し、審議会の名簿などを作るための資料として関係機関に提出しておいたらよかろうという考えの下に出された案である。セミナーの決議にも出てきている案で、あくまで自己申告であり強制ではない。候補者の提出ではなく参考資料として関係機関に提出するものであり、それぞれの地域の実情に合わせて無理のない方法で行なって欲しい。中央の官庁－文部省、総理府、労働省なども大学婦人協会の人材名簿に非常に期待を寄せて待っているようである。

昨年度（一九九〇年度）金沢支部が人材名簿を作成しコピーを本部に送付してきた。また事業報告に見られるように福岡、新潟支部も作成し、新潟支部では行政機関の婦人担当官に提出して非常に喜ばれた。秋田支部も作成し支部長が保管している。広島支部もすでに県に提出した。

支部で人材名簿を作成したらコピーを一部本部に送付されたい。

3　高齢者会員の件について　吉武勇子

この件は二、三年持ち越している問題で、大学婦人協会で活躍された方が、高齢になったために会費納入が困難になった場合に、名誉会員というような扱いにするかどうかの問題である。三二支部の中で今までに意見の出た支部は一七支部で、その中はっきりした意見を出したのは一二支部である。この中でそのような考慮は不要というのが三支部、他は高齢者に個人差があるので各人の意見を尊重したいというのが主である。今この点について諮りたい。

この場でさまざまな意見が出されたので、参考にするために大体の傾向を知る意味で、一応三つに分けて採決をとる。（採決の結果は以下の通り）

一定の年齢により会費免除・・・・・・・・・五名
個人差を配慮する・・・・・・・・・・二六名
何も考慮しない（会費会員）・・・・・・六六名

この総会の意見のもとに今年度中に理事会で態度をきめる。

4　一九九五年第二五回IFUW総会について　会長

既報のように一九九五年第二五回IFUW総会は日本で行なわれる。会場候補として横浜のコンベンション・ホールと千葉の幕張メッセのテープをIFUW本部に送ってある。決定の通知がきたら理事会記録を通じて支部に知らせる。

なおIFUW総会に向けて募金をする場合には早く知らせて欲しいとの要望が支部からあった。

5　その他

湾岸戦争に対する大学婦人協会の態度の反省として、日本はとかくいう立場ではなく、環境を守る側、救援する側にたち、国連の力を強くすることに力を注いだら良いのではないかなどの意見が出された。

また、退会は本人が退会届けを出した時のみ可能で、会費滞納者でも除名できないことの確認がなされた（定款第一〇条、一一条参照）。

セミナーのテーマを早く知らせて欲しいとの要望に対しては、一応理事会記録を通じて前年度に知らせてあるとの答えがあった。

留学生の受入れに関しては、広島では「エソール広島」の留学生コミュニケイション・コーナーで相談にのり、京都では「KAHF」（カーフ）というホストファミリーのボランティア・グループが相談にのることなどが報告された。

一九九五年の日本におけるIFUW総会を機会に、この会を若い人に魅力あるものとし、若い会員の獲得に努めようとの提案などがあった。

6　次期総会開催地について　会長

第三五回総会の会場は、東京支部に依頼した。

開催承諾についての挨拶

東京支部長　金子京子

来年の総会は四月三日（金）四日（土）東京の全日空ホテルで行なう予定である。

開催地支部長挨拶

広島支部長　河石禮子

謝辞

新潟支部長　豊島千代

閉会の辞　丸山庸子

以上をもって本日の議事全部を終了したので議長は閉会を宣した。

上記議事を明確にするためこの議事録を作成し、議長及び出席者代表二名は次に記名・押印する。

一九九一年四月二日
社団法人大学婦人協会
議長（会長）　中村ミチコ
署名人　山崎みね
署名人　吉武勇子

第八回　支部長懇談会報告

広島支部　河石禮子

四月一日午前十時半より広島全日空ホテル飛鳥の間において第八回支部長懇談会が開催された。本部から中村ミチコ会長はじめ理事十六名と札幌から鹿児島までの十九名の支部長が出席した。

評議員会、総会とはちがった角度から、各支部の活動の様子、抱えている悩みを出し合い情報交換が活発に行われた。

○会員数について

会員増がとてもむつかしい。特に若い会員に魅力ある会にするのにはどうしたらよいのか困っている。大学婦人協会という名称が堅すぎるのだろうか。その年の研究テーマをはっきりすると、あつまりやすくなるのではないか。

○会費について

長期滞納者のあつかいをどうしたらよいだろうか。支部長が、何度も連絡をとるなど苦慮して居られる様子がうかがえる。会に長い間貢献された方が高齢になられて、会費をいただきにくい。本部はどの様に考えておられるか。何か良い方法はないだろう。

○各種講座・講演会について

開催を他の団体と共催で行っているところが多い。会員を講師としての講座は、資金確保の一助となっている。講師の謝礼は、支部の事情によりバラツキが大きい。又公開講演会、公開講座は、当日会員を徴集しているところもある。

○セミナーについて

テーマをはやく知らせてほしい。「開発教育」は、社会的に目新し過ぎて苦労した。セミナー報告書は、行政機関に持ってゆき、それが認められ、会がそれなりの評価を受けている。

○奨学金について

毎年同じ大学から申請しても奨学金をいただけないと意欲も薄れ、そのうち会との縁もきれてしまう。奨学金をいただくのに遠い所から支部長同伴で上京するのは大変である。奨学金受賞者に対する会への入会勧誘は、交換条件と受取られぬよう注意したい。支部で独自の奨学金を出しておられるところもいくつかある。

○交流について

地域の他の団体と協力して活動を進めている支部も多い。この様な活動を通して、地域の「女性の館」を運営しているところもある。留学生との交流・支援を支部の年間行事に組んでいる支部もいくつかある。

種々の要望・意見が出たが本部の考えや事情をうかがう時間の余裕はなかった。総会の席で、会員数・会費・セミナー等については議題となり、話し合いが深められた。

1991年度 支部長名簿

（社）大学婦人協会
◎＝変更なし

支部名	氏名		〒	住所	電話
小樽	吉田喜美子	東女	047	小樽市稲穂5－4－3	0134－32－3132
札幌	戸部 アナマリア	メキシコ国大	063	札幌市西区八軒一条西1丁目 2－27	011－621－3259 FAX 611－0224
◎函館	吉村 公子	東女	041	函館市富岡町2－33－15	0138－41－6938
秋田	小松 友子	東北	010	秋田市広面字川崎25－5	0188－33－1367
◎仙台	大脇 静枝	茶	980	仙台市青葉区上杉5－3－70	022－222－0311
◎福島	関口 富左	和洋	963	郡山市桑野1－22－20	0249－32－1466
新潟	多田 千代	茶	951	新潟市二葉町3丁目5929	025－222－5757
◎茨城	保田 禮子	茶	312	勝田市市毛1202	0292－72－0602
◎栃木	遠藤 ミサ	奈女	320	宇都宮市鶴田町1742－3	0286－48－2543
◎群馬	北爪江美子	群馬	371	前橋市南町4－16－9	0272－21－0337
長野	三田 コト	茶	380	長野市居町90－1パークタウン707	0262－44－9105
◎東京	金子 京子	実	214	川崎市多摩区登戸新町 450－408	044－922－3718
◎神奈川	房野 桂	津	240	横浜市保土ヶ谷区権太坂 1－21－17	045－721－9001
◎静岡	庄司由美子	静岡	424	清水市草薙1036－23	0543－45－9855
愛知	鈴木キヨノ	南山	446	安城市山崎町向26	0566－75－7013
◎岐阜	松井 恵美	津	502	岐阜市長良雄総880－103	0582－32－5010
◎金沢	北村 幸子	日女	920	金沢市本多町2－8－6	0762－61－0530
◎福井	木村 温美	茶慶	916－02	福井県丹生郡宮崎村蟬口4－21	0778－32－3037
京都	松尾 景子	奈女	600	京都市下京区東洞院高辻上る	075－351－0537
奈良	平井タカネ	奈女	630	奈良市白毫寺町213－2 朝日プラザ高畑東407	0742－23－2846
大阪	一柳 季代	大女	560	豊中市本町5丁目12－11	06－852－3786
神戸	北川 栄子	東女	662	西宮市甲風園3－7－7	0798－67－6661
岡山	額田 昭子	奈女	703	岡山市門田文化町2－7－26	0862－72－3666
◎広島	河石 禮子	日女	732	広島市東区牛田東3－14－2	082－228－2243
◎山口	中村 秀子	日女	755	宇部市上宇部開749	0836－34－5115
◎愛媛	太田万寿子	京府	790	松山市道後月町4－10 ホテル川吉	0899－41－8272
◎高知	西山セイ子	津	780	高知市小津町10－41－133	0888－75－9786
◎大分	日野 ユリ	広女	874	別府市北的ケ浜町2－11	0977－25－3555
◎熊本	出井ヤス子	茶	862	熊本市健軍町2612－123	096－369－3833
◎福岡	船津 桂江	福女	815	福岡市南区平和2－19－27	092－531－0154
◎長崎	玉木ますみ	奈女	850	長崎市愛宕町1－21－6	0958－21－0179
◎鹿児島	小寺初世子	京院	890	鹿児島市鴨池町1140 鹿大鴨池宿舎4－1	0992－53－5478

社団法人 大学婦人協会
一九九〇年度 事業報告
一九九一年度 事業計画

書記　海老原典子　川田ひろ

総務報告

Ⅰ 組織

会員
正会員　二、四〇四名
（内本年度新会員）　一一三名
賛助会員　六名
理事　一八名
監事　二名
役員選考委員　七名
評議員　三二名
支部　三二支部

Ⅱ 事業

1 一九九〇年四月一日第三三回通常総会を新潟市、ホテル新潟において開催した。

2 定例理事会を一一回開催し、それらの議事内容は理事会記録を通じて評議員（支部長）に、また決議事項は会報（JAUW）により会員に報告した。

3 通常総会において、国際奨学金規程改正案および国内奨学金規程改正案（安井医学奨学金の設定を含む）が原案通り承認された。ホームズ奨学金規程については、奨学金の額を従来の七万円から一〇万円以上と改めることが承認された。

4 一九九五年第二五回IFUW総会の開催を引き受ける件について、評議員会および総会で了承を得たので、正式に開催を引き受ける旨の手紙をIFUWに発送した。
IFUWからは日本で開催することに決定した旨の連絡があった。

5 一九八九年度国庫補助事業報告書を四月五日文部省に提出した。

6 障害学生対象の指定寄付一〇万円の中、八万円を今年度だけ社会福祉奨学生一名増員の費用に当て、残りの二万円を国内奨学金の基金に廻すことが、五月一二日の定例理事会で承認された。

7 役員異動に伴う登記を五月二八日に完了した。

8 六月一六日国外奨学生選考委員会を開き、一九九〇年度IFUW加盟国の大学婦人協会会員を対象としたJAUWの国外奨学生として、インドのMs. Baisakhi Bandyopadhyay及びトルコのDr. Narine Ünalの二名の招聘が決定した。

9 新旧理事・監事異動届、一九八九年度事業報告・一九九〇年度事業計画を、六月二六日文部省に提出した。

10 一九九一年度国庫補助事業計画案はテーマを「環境と消費」とし、国庫補助金一八〇万円の申請を含む事業計画書を七月二〇日文部省に提出した。

11 Virginia Gildersleeve International Fund for University Women Inc.の募金が一、〇〇〇ドル近く集まり、会長が訪米の折り（七月二四日）VIGFの会計に届けた。

12 セミナーおよびフォーラム
① 企画委員会は一九九〇年度文部省国庫補助事業を、テーマを「開発教育」として企画立案し、実行委員会の協力によりセミナーを実施した。支部及び本部委員会（国際第一・教育）による調査・研究を主とし、九月二九日東京・京王プラザホテルにおいて全国セミナーを開催、その成果としての決議事項に基づき要望書を作成し、文部大臣・外務大臣および総理府婦人問題担当室長宛に提出した。
② また、企画委員会は、文部省の一九九〇年度・婦人の社会参加支援特別推進事業の委嘱を受け、「女性と開発教育」をテーマとして企画立案し、国際協力事業団、NGO活動推進センター、日本国際ボランティアセンター、日本汎太平洋東南アジア婦人協会、日本キリスト教女子青年会を協力団体として、実行委員会とともに事業を実施した。四支部及び本部委員会（国際第二・婦人の地位）による調査研究のほかに地域の啓蒙集会を行ない、九月三〇日東京・京王プラザホテルにおいて全国フォーラムを開催した。開発教育の普及のため、これらの成果報告をもとに「女性と開発教育の手引」を作成、二月末完成し三月に広く配布した。
参加者は、全国セミナー一九一名、全国フォーラム二〇四名で双方とも充実した会で、開発教育への関心が高められ地域にも影響を与えたとの報告が幾つか寄せられた。

13 IFUW前第二副会長Mrs. Chitra Ghosh（インド）を、九月三〇日の全国フォーラムの講演の講師として招携した。

14 IFUW第一副会長Dr. Elizabeth Poskitt（イギリス）が一〇月に来日された。中村ミチコ会長以下数名が一〇月二八日及び二九日に一九九五年第二五回IFUW総会の候補会場にご案内した。

15 アジア大学婦人連盟（UWA）総会（於ダッカ、バングラデシュ、一月六日～一〇日）に、今井けい国際第一委員長が出席した。

16 天皇陛下の即位の礼の一一月一四日の饗宴の儀に、中村ミチコ会長が招待され、出席した。

17 オーストラリア大学婦人協会第二八回総会（於タスマニア、一九九一年一月一三日～二〇日）の開会式に、JAUW会員八名が参加した。

18 一九九〇年度国内奨学生および社会福祉奨学生に対する奨学金の贈呈式を次のように行なった。
一九九一年一月一九日
於国立教育会館

国内奨学生
学部学生　七名
大学院学生　八名
安井医学奨学生　一名
ホームズ奨学生　一名
社会福祉奨学生　二名

19 役員選考委員会は一月二三日委員会を開催した。

20 会員の親睦をはかるためJAUW新春のつどいを一九九一年一月二六日高輪京急ホテルで開催した。参加者は一〇二名であった。

21 総会費三〇万円を一月二八日広島支部へ送金した。

22 一九九一年度予算案を一月三〇日財務委員会において作成した。

23 IFUWへの寄付金二〇万円を一月三一日送金した。

24 「大学婦人協会」の概要（リーフレット）の作成が三月一日完成した。

Ⅲ その他

1 全国セミナー、奨学金関係、見学旅行、講演会、バザー開催、及びIFUW関係の交流については、各担当委員長の報告を参照のこと

2 ファックス及びパソコンをリースし事務所に設置した。ファックス番号は〇三－三二〇二－〇八三〇である。

3 本年度物故会員に対して謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りする。
逝去会員
小野寺　あや子（東女）
東京支部　一九八八・九・二五
加藤　セチ（北海道）
東京支部　一九八九・三・二
小田　重（茶）
小樽支部　一九九九・三・三
渡辺　照子（日女）
愛知支部　一九九九・一〇・三
鈴木　節子（金城）
愛知支部　一九九〇・三・一九
大岩　春子（津）
東京支部　一九九〇・四・三
加藤ハツコ（奈女）
札幌支部　一九九〇・五・九
徳永喜久子（津）
東京支部　一九九〇・七・二八
野見山不二（日女）
東京支部　一九九〇・一・二六
大境　きよ（奈女）
栃木支部　一九九〇・二・三
竹崎　俊子（大女）
高知支部　一九九〇・三・二
甲斐美代子（日女）
大分支部　一九九〇・二・五
辻井　康子（奈女）
奈良支部　一九九一・一・五
猿丸　廉子（同女）
神戸支部　一九九一・二・五
林　直子（同女）
函館支部　一九九〇・五・九
吉原　千賀（津）
東京支部　一九九一・三・五

委員会報告

財務委員会　五十嵐　康子

Ⅰ 事業報告
（一九九〇年度）

1 賛助会費
（一口　五、〇〇〇円）
山川はる江氏　一口
佐藤　秀一氏　二口
山田　禮氏　一口
川田　徹氏　一〇口
豊田　寿子氏　一〇口
五十嵐雄一氏　六口
六名　三〇口
一五〇、〇〇〇円

2 委員会活動
・英語講座　一九八八年一〇月から始まり今年も六回、七回、八回となごやかな勉強会が続いている。何時からでも入会歓迎である。
・古典を読む会を新設　一〇月より第二第四月曜日事務所で講師に会員の山川正子氏をお迎えし平家物語を読んでいる。　二一名参加
・九月二九日セミナー・三〇日フォーラムの折、バザーを行なった。会員の寄贈品のほか銀座松屋、ジャスコ（株）その他の企業からご後援を頂いた。昨年に引続き井上ジェムス（株）によるパールのセールがありセミナー後寄付を頂く。フォーラムの席上開発途上国への募金箱をまわし出席者のご協力を頂いた。また、JVC、シャプラニール、RIジャパンよりの出店もありこれらの売上にバザーの売上を加え一〇万円をJVCの星野昌子氏を通し開発途上国へ寄付をした。JVCのカレンダー販売は婦人の地位委員会が担当した。
・一〇月一六日　「江戸の下町情緒」と「国際都市東京のウォーターフロント」という二つの面を併せ持つ江戸川区をバスと遊覧船で見学した。東の横綱と云われる枝振の見事な影向の松のある善養寺、東京唯一の江戸風鈴の工房では希望者五人が実際にガラスを吹いてオリジナルな風鈴を作られた。平成庭園を見て、「しゃぶテキ亭」で昼食の後、水上バスで臨海水族館を訪ねた。鮪の大群が回遊する水槽は圧観であった。また、初めて見る深海魚や世界各地からの珍しい魚に時間の経つのも忘れる程だった。当日、ご案内やご説明下さった江戸川区役所の方々、休日にも拘らずお店を開けて下さった「しゃぶテキ亭」の方々に感謝申上げる。
五三名出席
・一月二六日　一九九一年JAUW新春のつどいが昨年同様高輪京急ホテルで開催された。栃木支部一名　熊本支部二名　神奈川支部一名　熊本支部二名を含む一〇二名が参加された。会長のご挨拶の後、フルートの平野靖氏、ヴァイオリンの石井光子氏、ピアノの内山夏子氏による演奏が行なわれた。フルート演奏、宮城道雄作曲「春の海」フォーレ作曲「シシリアーヌ」、トリオでイベール作曲「フルート・ヴァイオリン・ピアノの為の二つの間奏曲」、ヴァイオリン独奏、クライスラー作曲「愛の喜び」、サン・サーンス作曲「序奏とロンド・カプリチオーノ」と盛沢山のプログラムにアンコールもあり素晴らしい演奏に心なごむひとときであった。JAUW元会長の中村道子氏のご発声で世界平和の願いをこめて乾杯をし会食が始まった。熊本支部長出井ヤス子氏より一九九三年熊本での総会へお招きのスピーチがあった。フルートの平野靖氏のけん玉の妙技のご披露もあり会場は大いに湧いた。東京支部担当の福引では金子支部長の軽妙な司会で皆楽しんだ。バザーも盛況で株式会社エスジーエルの協賛で宝飾品のチャリティ・セールも行なった。今年も銀座松屋のご好意で参加者全員にお土産が配られた。昨年から始めた会場での国内奨学生のための募金に殆どの方がご協力下さり感謝である。
・松屋カードの利用会員は順調に増えている。
・三越劇場観劇会を継続実施
・化粧品、ストッキング、テレフォンカード、紙ナプキン、包装紙、ハンカチ、こぶ、ごまあえの素等に加え、うどんスープ、海藻サラダ、短冊箋、和紙カード、杏文堂発行「体験しよう日本の文化」等常時事務所に置いて会員の需要にこたえている。
・不要新品のセール等のミニバザーを随時事務所で行なう。
・一月三〇日　委員会において一九九一年度予算を作成した。
・委員会　七回
寄付状況
寄付金総計
三、四三三、〇〇〇円

3
a 寄付金　一、七三三、〇〇〇円
株式会社松屋
一、二〇〇、〇〇〇円
株式会社エスジーエル
三〇〇、〇〇〇円
岩城典子氏（但　社会福祉奨学金へ）
一〇〇、〇〇〇円
シャンブル昌美氏
二〇、〇〇〇円
中村ミチコ氏
一〇、〇〇〇円
会員その他寄付
一〇三、〇〇〇円
b 活動その他による寄付
一、七〇〇、〇〇〇円
・国内奨学金募金箱
・バザー
・バスツアー
・三越劇場観劇会
・新春のつどい
一九九一
・英語講座・古典をよむ会
・化粧品等の取り扱い
・財務ミニバザー

Ⅱ 事業計画
（一九九一年度）
・セミナー、総会時にバザー
・バスツアー
・三越劇場観劇会
・JAUW新春のつどい
一九九二、一、一八
・一九九二年度予算案の作成

Ⅲ 委員
相田志都江　芥川　妙子
阿南　糸代　井口美登利
海老原典子　大森たへ子
奥津　成子　加藤　恭子
川田　ひろ　熊切　富子
小宮　礼子　佐藤　敏子
柴崎　富子　新藤　悦子
鈴木　照子　鈴木　行子
副島　節子　染谷　房子
中野　照子　羽山　昭子
峯川　正子　八木　博子
山村　敬子　五十嵐康子
三越劇場観劇会メンバー
相田志都江　藍原　邦子
五十嵐康子　石上　敏子
伊藤　俊技　海老原典子
遠藤　郁子　奥津　成子
片山　秀子　加藤　恭子
熊切　富子　庄司　ヨシ
白井　典子　鈴木　行子
武田　純子　太刀川洋子
豊倉　桂子　中村ミチコ
永井　幸子　西村　章子
野口　敏子　野崎　方子
林　庸子　藤井　暁恵
村田はる子　山崎　みね
山本　寿子

企画委員会　丸山庸子

Ⅰ 事業報告
（一九九〇年度）
本年度は、例年通りの国庫補助事業に加えて、文部省委嘱による婦人の社会参加支援特別推進事業と二つの事業を行なった。
文部省国庫補助事業は、テーマを「開発教育」として企画立案し、実行委員会の協力によりセミナーを実施した。支部及び本部委員会（国際第一・教育）による調査、研究を主とし、九月二九日東京・京王プラザホテルにおいて全国セミナーを開催、その成果としての決議事項にもとづき要望書を作成し、文部大臣・外務大臣及び総理府婦人問題担当室長宛提出した。
また、婦人の社会参加支援特別推進事業（通称フレッシュサポート）は「女性と開発教育」をテーマとして企画立案し、国際協力事業団・NGO活動推進センター・日本国際ボランティアセンター・日本汎太平洋東南アジア婦人協会、日本キリスト教女子青年会の協力により事業を実施した。四支部及び本部委員会（国際第二・婦人の地位）による調査・研究のほか、地域集会による啓蒙活動を主とし、九月三〇日実行委員会の協力により全国フォーラムを東京・京王プラザホテルにおいて開催した。これらの成果報告をもとに「女性と開発教育の手引き」を作成二月末完成し三月広く配布した。
参加者は全国セミナー、一九一名、全国フォーラム、二〇四名であった。
一九九〇年四月の通常総会において「開発教育」についての趣旨説明を行なった。理事一八名のほか五名の会員を企画委員に委嘱し企画委員会を構成、フレッシュサポートは未定のまま国庫補助事業実施に向かってスタートした。企画委員会は、後に委嘱した一九名の実行委員とともに国庫補助事業・フレッシュサポートに分れて分掌した。セミナー・フォーラムの内容は、会報一五九号と「女性と開発教育の手引」に詳報されているので省略し、ここでは二つの事業を平行させて準備した企画委員会活動の概略の報告にとどめる。
第一回　四月一四日
・四月一一日、婦人の社会参加支援特別推進事業の事業計画書（案）を文部省に提出したことを報告し、この事業の趣旨について懇談した。
・国庫補助事業の実施期日・場所を確定した。
・サブテーマ案について検討した。
第二回　五月一二日
・サブテーマについて検討の末以下のように確定し、直ちに全国支部に知らせ参加を募ることとした。
1. 学校教育における開発教育
2. 地域社会における開発教育
3. 女性と開発教育
4. 環境保護と開発教育
第三回　六月二日
・参加支部及び本部委員会が以下のように一応決まった。
秋田・新潟・茨城・東京・静岡・神奈川・愛知・京都・神戸・大阪・岡山支部
国際第一・国際第二・教育・婦人の地位委員会
・国庫補助事業とフレッシュサポートを独立した二つの別事業として行なうが、その内容の違いを具体的に書いた書類を文部省から要求され、企画委員会で検討して提出することとした。
・プログラムの概要を検討し、基調講演・シンポジウムの講師につき話し合った。
・六月末までに参加支部及び委員会に予算の提出を依頼することとした。
第四回　七月七日
・六月二九日文部省からフレッシュサポートの委嘱が内定し、四〇〇万円の交付が認められたとの通知があり、正式な事業計画書を七月

（次頁へつづく）

(前頁よりつづく)

七日に提出した。国庫補助事業は三割減額の九五万円となりきびしい運営となった。

・群馬・奈良支部から参加の申し出があり、九支部二委員会を国庫補助事業に、四支部二委員会をフレッシュサポートに参加と確定した。

・二事業のプログラムの概略が決まり、七月半ばに"ちらし"を事業別に作成し直ちに一般及び支部に配布することにした。

・各支部のテーマが確定し、フレッシュサポート講演の講師にチトラ・ゴーシュ氏、シンポジウムの講師に田中由美子氏、星野昌子氏、サンガ・ンゴイ・カザディ氏が決まった。

・支部から提出された予算を検討し配分を決めた。

・企画委員会の役割分担を決めた。

第五回(第一回)七月二一日

(　)内はフレッシュサポートに属する。

・七月一三日正式にフレッシュサポートの委嘱がきまり文部省において連絡会が開かれ、趣旨説明を受けた。その後テーマ別のグループに分かれ、企画運営委員・文部省担当者と話し合い助言を得た。

・フレッシュサポートの実施に向け、国際協力事業団・日本国際ボランティアセンター、NGO活動推進センター・汎太平洋東南アジア婦人協会・日本キリスト教女子青年会に協力を要請し、企画委員会への出席を依頼した。

・NGO活動推進センターの伊藤道雄氏・汎太平洋東南アジア婦人協会より井上繁子氏の参加を得、適切な助言をいただいた。

・シンポジウムのテーマ、その進め方について検討した。

・セミナーの基調講演に、金谷敏郎氏が決まった。

・実行委員会は、東京支部(一〇名)神奈川支部(二名)茨城支部(二名)本部(五名)の計一九名が参加することに決まった。

第六回(第二回)八月二二日

・企画・実行委員数名ずつが京王プラザに出向き・京王プラザのスタッフと打合わせを行ない、セミナー・フォーラムの運営につき検討した。このとき会場の都合で、フォーラム終了時間を一時間早めねばならぬことを知り、開会を三〇分早めるなど即刻変更の通知を送った。

・セミナー・フォーラムそれぞれのプログラムを印刷した。

・マスコミ関係・婦人団体などに広く宣伝を行なうように広報委員に依頼した。

第七回(第三回)九月一日

・企画・実行合同委員会を開催し、セミナー・フォーラムそれぞれの分担で運営につき検討し、実行委員会は九月二七日、最終の準備を完了することとなった。

・秋田・茨城・京都・岡山の四支部から、地域での啓蒙集会開催の報告或は案内があった。

・フォーラムのシンポジウムの講師を、現在、開発教育を担当されている臼井香里氏に依頼し、講師は四人となった。

第八回(第四回)九月二二日

・参加支部・委員会から、決議項目のために寄せられた報告をもとに決議準備委員会を開催し、セミナー全体会議へ提出の素案をまとめた。

第九回(第五回)一一月一七日

・二事業について、それぞれの反省会を行なった。

(第六回)二月二三日

・フォーラムについての反響・開発教育への今後のとり組み、NGO活動のあり方などにつき、協力団体の方々と懇談した。

一九九〇年七月、一九九一年国庫補助事業について企画・立案し、事業計画書を文部省に提出した。

一九九一年四月、一九九〇年度の国庫補助事業の実績報告書を文部省に提出する。

Ⅱ　事業計画

(一九九一年度)

一九九〇年度は開発教育の促進を願って、これをテーマに事業を行なった。開発教育の問題はなおひきつづきとり組みたいという希望もあるが、本年は開発と密接な関係にある環境の問題を中心にすえ、地球保全のための緊急課題に私たちなりのやり方でとり組んでみたいと思う。開発教育で学んだグローバルな視点はそのままに、それぞれ身近な問題を明確な認識の上に立って実践につなげて行きたい。また、環境倫理に基づくライフスタイルの見直しも含わせて考えて行きたい。

Ⅲ　委　員

(一九九〇年度)

婦人の社会参加支援特別推進事業

企画委員

青木　怜子　井上　繁子
牛頭　栄子　佐藤　敏子
中村ミチコ　根岸　愛子
野口　敏子　野崎　方子
野瀬久美子　丸山　庸子
峯川　正子　山本　和代
吉武　勇子

実行委員

岩元もと子　内田　奎子
静間　敏子　庄司　ヨシ
太刀川洋子　田中　正子
津森都留子　松沢美仁子
山下　泰子

助言者

伊藤　道雄
田中由美子　江尻美穂子
山崎　倫子　星野　昌子

国庫補助事業企画委員

五十嵐康子　井口美登利
今井　けい　海老原典子
遠藤　明子　鍛島　康子
金子　京子　川田　ひろ
八木　博子　山崎　みね

実行委員

石津　幸子　磯村　明子
草島三輝子　鈴木　照子
高井　敬子　永津　栄子
平野　和子　福田　練子
山本　明子　吉田　桂子

国内奨学委員会　鍛島康子

Ⅰ　事業報告

(一九九〇度)

五月一二日　新しい規程によって進めることになった。安井医学奨学金の設定のため、選考委員、募集書類付大学の検討などを行った。ホームズ奨学金は一〇万円に増額された。

五月一四日　一九九〇年度の計画をたてた。書類発送六月四日、締め切り一〇月八日、選考委員会一〇月三〇日、贈呈式一月一九日とした。

国内奨学生募集要項、交付調書、推薦状印刷発注

五月二九日　書類発送準備

学長宛(五〇大学)と支部長(三一)、ホームズ奨学生はお茶の水女子大学に依頼した。

六月四日　送付書類、送付先確認、書類発送、会報一五八号に募集要項掲載

一〇月九日　委員会開催、応募書類の点検、応募者リストの作成、審査方法の検討、贈呈式の要領および講演講師の検討

一〇月二〇日　応募者リストの作成　大学二〇名、大学院二三名、安井医学奨学生二名、ホームズ奨学生一名、合計四六名

一〇月三〇日　選考委員会一〇：〇〇～一六：〇〇開催　八委員の評価により奨学生候補者を選んだ。

一一月一七日　理事会において承認を得た。応募状況と決定者は次の通りである。学部学生二〇名のうち七名、大学院生二三名のうち八名、安井医学奨学生二名のうち一名、ホームズ奨学生一名、(会報一六〇号で既報)

贈呈式の記念講演講師、野本照子氏(東京女子医科大学教授)決定

一一月二〇日　選考結果を全員(学生、学長、支部長)に通知するため書類を作成

一一月二七日　選考結果の書類の送付

一二月一日　贈呈式の準備、賞状、奨学金の準備、授与者名簿、受領書の作成

一月一四日　贈呈式の打ち合わせ

一月一九日　第四三回奨学金贈呈式　於：国立教育会館中会議室四〇二号一三：三〇～一六：〇〇

学生出席者一三名、欠席者四名。愛知支部長、新潟支部長、茨城支部長、お茶の水女子大学学生課長その他三〇余名出席、その後有志だけでお茶の会を開き学生と共に懇親を行なった。

一月二四日　贈呈式欠席者の奨学金と賞状を推薦された支部長に送付した。

二月二〇日　会報一六〇号(選考経過、奨学生の小論文掲載)を学生に送付した。

Ⅱ　事業計画

(一九九一年度)

1．前年通り奨学生の募集、選考をおこなう。

2．ホームズ奨学生は奈良女子大学に推薦を依頼する。

Ⅲ　委　員

井上久仁子　大野　凜
金子　京子　木村　晴子
西村　圭子　野崎　方子
野本　照子　後藤　英子
新妻　弥生　鍛島　康子

国外奨学委員会　根岸愛子

Ⅰ　事業報告

(一九九〇年度)

JAUW国際奨学金関係

1

一九九〇－一九九一年の二名の奨学生と一名の補欠を選んだ。募集経過は下記の通りである。

(1)　六月五日募集締切、応募者は、スリランカ三名、インド二名、トルコ二名、オーストリア一名、オーストラリア一名、タンザニア一名、計一〇名であった。

(2)　六月一六日選考委員会を開き、選考の結果、Ms. Baisakhi Bandyopadhyay(インド)二七歳とDr. Narine Ünal(トルコ)四四歳の二名を奨学生に、Dr. Latife Mamikoglu(トルコ)三四歳を補欠に決定した。七月の理事会に報告し応募者に合否の結果を通知した。

(3)　七月にDr. ÜnalとMs. Bandyopadhyayから契約書を受領したのでこの二名が奨学金を受けることが確定した。

(4)　Dr. Ünalは大阪大学理工学研究所(ISIR)において、新原教授の下で材料工学(セラミック)の研究を行なう。一九九〇年九月から一九九〇年一二月までの三ケ月にたいし、八〇万円を授与する。宿舎は大阪大学国際会館であるが、大阪支部長岩堂美智子氏をはじめ支部のメンバーにお世話をお願いした。

(5)　Ms. Bandyopadhyayは東京大学理学部小石川植物園で岩槻教授の下で細胞遺伝学の研究を行なう。一九九一年一月から三月までの三ケ月にたいし、八〇万円を授与する。宿舎は三鷹の白方氏宅にホームステイすることとなった。

(6)　九月一八日Dr. Ünal来日、一二月一八日に無事研究を終わり、帰国した。

(7)　一月一二日JAUWの国外奨学生募集要項を印刷し、IFUW加盟国および問い合わせのあったところに発送した。

(8)　一月三一日Ms. Bandyopadhyay来日

2．その他の国外奨学金関係

各国の大学婦人協会(連盟)からの奨学生募集を取り次ぎ、多数の国外・国内からの問い合わせに応じた。

Ⅱ．事業計画(一九九一年度)

1．前年度に引続き、IFUW加盟国の大学婦人協会会員を対象として、国外から研究者を招き、奨学金を授与する。人数は二名とし、うち一名はなるべく発展途上国からとする。支給額は、増額となり、研究の内容・性質、滞在期間に応じて一〇〇－一五〇万円、研究期間は一九九一年九月から一九九二年二月末までの間に三ケ月以上とする。今年度は五月末が締め切りとなる。

2．AAUWおよびIFUW関係の奨学生募集の取り次ぎをする。

3．その他の国外奨学金の募集・問い合わせに対しても、情報提供・斡旋を行なう。

Ⅲ．委　員(一九九〇年度)

赤木　洋子　大竹　泰子
島　美喜子　種田　幸子
萩原　芳子　松沢美仁子
峰本　啓子　宮島　茂子
山崎　倫子　根岸　愛子

なお、選考委員会には、国外奨学委員のほかに、JAUW会長、副会長、および東京支部長が加わる。

国際第一委員会　今井けい

Ⅰ．事業報告(一九九〇年度)

1．IFUW関係

(1)　IFUW本部から、第二三回IFUW総会(於ヘルシンキ)および第七三・七四回評議員会議事録が到着した。総会議事および決議のおもなものは下記の通りである。

①　IFUW一九八九～一九九二年期会長に、Dr. Mary Purcell第一副会長にDr. Elizabeth Poskittが選ばれた。

②　会員委員会からはヤング・メンバー増員のための多様な意見が出た。

③　IFUW会費が一人当り九スイス・フランとなった。

④　学問の自由と高等教育機関の自治に関する「リマ宣言」を認めることを決議

⑤　子どもの権利条約第三八条の例外規定－一五歳の子どもは軍事行動に参加できる－に反対

⑥　婦人の地位委員会(Dr. E. Poskitt)からは、無償労働についての研究の継続が要望された。無償労働の経済的貢献は、GNPの五〇%を越えている。

⑦　UNESCO、ECOSOC、ILOへの代表報告

⑧　Project Five-Oの現状について

⑨　軍事費を削減し、教育、持続的発展、人間的必要を満たすために使うことが決議された。

⑩　環境汚染を防ぐために、Brundtland Reportにおける勧告を実行する。

⑪　女性問題および女性の地位に関わるNGO代表を、政府代表の中に加える。

⑫　「女性の地位向上のための将来戦略」の実施状況について、全国的なデータを求める。

その他

(2)　アメリカ各州支部との共同事業(活動)および交流に、参加の意志ありやの問い合せあり(一一月一一日付)、JAUW支部に同文書回送、神奈川支部より前向きの回答があった。

(3)　「IFUW環境および開発プログラム」について

一九九二年ブラジル国際環境会議(UNCED)が開催されるに当って、IFUWのようなNGOの積極的な協力が求められている。この事に関して次のような要請があり、適宜に処置した。

①　環境問題に関して、JAUWがこれまでどの程度関わってきたか等に関するアンケート

②　IFUW環境・開発ネットワーク作成について

環境・開発問題の専門家たちのネットワークを作り、IFUWのため、非公式の「作業グループ」とする。グループ・メンバーはIFUWのためのペーパーの作成、講演などに従事する。こうした分野で活躍できる会員はNetwork Reply Formに氏名、専門分野などについて記載し、IFUWへ回答されたい。－JAUW支部へ同主旨の文書発送

(4)　Study and Action Programme　一九九二－九五

上記のための一般的テーマ、特別主題の選定は、一九九一年九月六日－一〇日スイスで行なわれる第七五回評議員会で決定される。そのための提案は一九九一年三月三一日までとする。

(5)　第二四回IFUW総会ワークショップでの発表希望者を募った(一九九一年一月二二日付で文書を支部へ郵送)。(日時：一九九二年八月一五日－二二日、場所：米国スタンフォード大学、テーマ：変貌する社会における女性の役割、"Women's Role in Changing Society: Working for personal development and sustainable development")

(6)　IFUW関係の情報のうち、重要と思われるものについては邦訳し、各支部に配布した。

2．UWA関係

(1)　アジア大学婦人連盟(UWA)総会に、今井けい国際第一委員会委員長が出席した。

日　時：一九九〇年一一月七日－九日

場　所：ダッカ(バングラデシュ)

テーマ：文盲者に対する健康教育

①　一一月七日　バングラデシュ大学婦人連盟の運営による University Women's Federation College見学、スタッフおよび学生との交流、タイ、インド、パキスタン、韓国、日本の各代表によるスピーチ、日本はJAUWの活動を三点にしぼって報告した。(イ．秋田支部とバングラデシュとのペアリング　ロ．一九九〇年夏開催の「開発教育セミナー」　ハ．国外奨学金について)

②　一一月八日午前　国際会議場でエルシャド大統領および女性問題担当大臣を招いて開会式開催(厳戒体制の中)、午後ビジネス・セッション「予防注射と衛生」と題して、地方や農村で実際に予防注射や衛生・識字教育に従事している女性の報告と討論があった。

③　一一月九日　「文盲者に対する健康教育」国際セミナー(於シェラトン・ホテル)

(2)　第四回アジア大学婦人連盟(UWA)評議員会に、今井けい国際第一委員会委員長が出席した。

日　時：一一月八日午後

場　所：シェラトン・ホテル(ダッカ)

議事内容は次の通りである。

①　第三回評議員会議事録朗読と前年度会計報告　会費(年US$一〇．〇〇)値上げ問題は見送りとなった。

②　将来計画：UWA会員国だけでなく、周辺国例えばネパールなどをも含めた地域環境問題をとり上げる。

③　IFUW会長Dr. Mary Purcellから最近のIFUWの活動について報告があった。

(3)　UWA総会セミナーで採択された「識字・衛生教育の促進に関する勧告」を、JAUW理事会で承認し(一九九一年一月一九日)、その旨、UWA本部(ダッカ)へ通知した。

3．人事交流

(1)　イギリス大学婦人協会会員のMrs. J. M. Laycockが、三月と四月にかけて来日され、京都支部の会員に大変お世話になった。また、四月十九日には東京で中村ミチコ会長

(次頁へつづく)

（前頁よりつづく）

の接待をうけられた。

(2) IFUW第一副会長Dr.E.Poskitt 来日、一〇月二九日開催の歓迎会に出席した。

(3) その他、IFUW会員等との文通については省略

4. 全国セミナー「開発教育」に参加、「海外の開発教育」について発表、上記を実施するにあたり、海外九カ国（アメリカ、カナダ、イギリス、フランス、オランダ、ノルウェー、西ドイツ、スウェーデン、オーストラリア）に開発教育に関する資料送付を依頼、送られてきたもの、およびその他の資料をもとに発表を行なった。（詳細は「全国セミナー報告書」参照）

Ⅱ. 事業計画（一九九一年度）

1. IFUW本部とその加盟団体との連絡

2. IFUW本部からの重要な情報については、それらの翻訳または要約をJAUW支部へ回送する。一九九一年度はとくに「環境保護」に関する情報を配布する。

3. UWAとその加盟団体との連絡

4. IFUW会員来訪時の接待

5. JAUW会員がIFUW加盟国訪問の際の紹介状発行

Ⅲ. 委　員

青木満里子　青木　怜子
浅田　圭子　大谷　幸子
中村恵理子　成田　廸子
平野　和子　福川　浩子
藤井　賤恵　藤谷　文子
柳原由美子　山本　明子
鷲崎　千春　今井　けい

国際第二委員会　野瀬　久美子

Ⅰ. 事業報告

1. 「国際婦人年日本大会の決議を実現するための連絡会」関係

(1) 全体会の主要な活動

・分野別各小委員会より昨年度の活動報告及び今年度の計画を報告（五月七日）

・ヘルビ・シピラ世界ユニフェム協会会長と懇談（六月一一日）

・生涯学習振興法について・婦人教育事情について、それぞれ文部省生涯学習局担当官からヒヤリング、開発援助問題について、開発と女性援助研究会座長・高橋展子氏よりヒヤリング（八月二日）

・平等オンブズマン制度及びクォータシステムについて学習、講師大槻勲子氏、松浦三知子氏、総理府婦人問題担当課長堀内光子氏より、政府の婦人の政策決定参加特別活動について説明、国連広報担当事務次長T.P.セビニ女史の講演「平等・開発・平和と女性」（九月六日）

・「中東紛争解決のための日本の平和維持活動に対する要請書」を政府・各政党・全女性議員に提出（一〇月三一日）

・一九九〇年民間女性会議を開催、於憲政記念館講堂、分野別小委員会からの報告・問題提起、ユニフェムアジア太平洋課長アイリーン・サンチャゴ女史によるユニフェム特別講演、ユニフェム特別献金を女史に寄託　決議：①一九九〇年民間女性会議決議、②開発途上国の女性の自立のためのユニフェム（国連婦人開発基金）を支援する特別決議（一一月一七日）参加者約四五〇名、ユニフェム親善大使アシオ女史来日（三月二二日）

(2) 分野別小委員会の活動

・政策決定参加小委員会平等オンブズマン制度と女性に一定の割合の議席を与えるクォータシステムについて検討

・家族・福祉小委員会高令女性の福祉、児童の権利条約、性差別の問題を検討「婦人問題としての高令者福祉」について学習会

・教育・マスメディア小委員会「生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律」案に対する要望書を文部省（六月二〇日）及び参議院文教委員会（六月二一日）に提出女性蔑視、人権侵害の映像・出版物に対する申し入れをNHK（七月三日）、ビデオ協会、民間放送連盟、日本新聞協会（八月七日）に提出

・労働小委員会育児・介護休暇、夜業について検討、「労働省婦人局長に男性が任命されることへの緊急申し入れ」を労働省、総理府婦人問題担当室に提出（七月三日）

・平和・国際協力小委員会「女性に対する開発協力の強化とユニフェムへの拠出増加に関する要望書」を外務省国連局に提出、WID（開発における婦人）について外務省経済協力局の九重匡江氏からヒヤリング、ユニフェムのリーフレット作成

2. 「国連NGO国内婦人委員会」関係

(1) 新役員：委員長大羽綾子氏、副委員長佐野智恵氏、中村ミチコ氏、顧問藤田たき氏

(2) 第四五回国連総会政府代表団に女性の登用を中山外務大臣に要望（六月二七日）

(3) 第四五回国連総会代表候補者の推薦を行ない、江尻美穂子氏が政府代表代理に決定、同氏歓送会（九月二一日）及び報告会（一九九一年一月一一日）を開催

(4) 一九九〇年度活動方針

・ナイロビ将来戦略を二〇〇〇年に向かって実現するための運動をすすめる。

・核兵器廃絶とすべての軍備の完全撤廃に向けて国の内外に働きかける。

・ILOの婦人関係諸条約の早期批准と勧告の実施促進を政府に要請する。

・「国際人権規約」の完全実施及び「人種差別撤廃条約」の早期批准をめざして運動をすすめる。

・人権問題に関する意識を高めるための広報活動

・国連総会及び国連の国際会議などに婦人の参加を一層容易かつ効果的ならしめる手段を講じる。

3. 「七婦人団体議会活動連絡委員会」関係

(1) 一九九〇年度の学習テーマを政治改革と小選挙区制度等について と決める。

(2) 上記テーマについて学習会を行なう。講師松浦三知子氏（七月九日）、佐竹寛氏（九月一〇日）

(3) 婦人参政権獲得四五周年記念集会のテーマを統一地方選挙として準備にかかる。

(4) 一二月一七日　婦人参政権獲得四五周年記念集会、於婦選会館、JAUWは開会のあいさつを担当、フォーラム„婦人が変える地域の政治"－第十二回統一地方選挙に向けて－（参加者約七〇名）

4. 「国際人権規約完全実施促進連絡会議」関係

世界人権宣言四二周年に際し、「人権関係条約の早期批准と完全実施に関する要望書」を外務省・文部省に提出（一二月五日）内容①「国際人権規約」中の留保条項の撤廃について、②「児童の権利条約」について、③在日外国人、就中移住労働者の問題について、④ODAについて

5. その他

(1) 労働省主催「第四二回婦人週間全国会議－女性の能力や役割についての固定的な考え方を見直そう－」（五月一八日）出席　於千代田公会堂

(2) 婦人問題企画推進有識者会議情報委員会報告会（六月一一日）出席　於総理府講堂　講演者ヘルビ・シピラ世界ユニフェム協会会長「女性・開発・NGO」

6. 一九九〇年度JAUWフォーラムの企画に参画したほか、委員会で女性と開発について調査研究し、資料集「女性と開発」－国連の機関を中心として－を作成、フォーラム当日参加者に配布（九月三〇日）、後日関係諸機関諸団体に送付

Ⅱ. 事業計画（一九九一年度）

1. 一九九〇年度に引きつづき上記関係団体との連繋を密に保ち、その活動に積極的に参加する。

2. 特に児童の権利条約等人権関係条約の早期批准促進やユニフェムに対する協力など、民間行動計画の具体的実施に向けて一層の努力を続けたい。

Ⅲ. 委　員

井上　繁子　遠藤　郁子
片岡貴美子　田中トモ子
福田　練子　山下　泰子
野瀬久美子

教育委員会　遠藤　明子

Ⅰ. 事業報告（一九九〇年度）

1. 一九九〇年度セミナーの企画に参加し、セミナー当日、実行委員として協力した（遠藤）。当日、テーマに基づく研究の中間発表をし（村松）、翌日のフォーラムにおいて、セミナーのまとめを報告した（遠藤）。

2. テーマに基づく研究は、アンケート調査を二回（第一回は、国について、第二回は、その国の人々について）行ない、分析、検討し、報告書にまとめた。

四月下旬　委員全員に、研究資料等配布（＊「一九九〇年度版　開発教育ハンドブック」開発教育協議会発行）

七月七日　資料等を持ちより、研究の方法等検討（東京在住委員）

七月三〇日　研究方法は、アンケート調査によることとし、その項目を検討（東京在住委員）

八月二四日　アンケート調査票（第一回用）作成、印刷

八月下旬　アンケート調査票配布（茨城在住委員および東京在住委員による）

九月二九日　セミナーにて、中間報告（村松）

一一月上旬　アンケート調査票（第二回用）作成、印刷、配布

一月下旬　アンケート調査票回収終了、分析、検討開始

三月　報告書作成

Ⅱ. 事業計画（一九九一年度）

一九九一年度セミナーに参画する。

Ⅲ. 委　員（一九九〇年度）

内田　奎子　金子　尭子
静間　敏子　村松　幹子
渡邊　恵子　遠藤　明子

婦人の地位委員会　野口　敏子

Ⅰ. 事業報告（一九九〇年度）

1. 「開発と教育」に関する資料収集、関係協会資料書、開発途上国に対する現地指導者・現地経験者よりインタビュー等により実態調査を行なう。

2. セミナーへの参画

一九九〇年度セミナーに参画し、1.により把握した実態についてセミナー用資料を作成発表する。

3. 「NGO諸団体の実施してきた開発教育」に関するアンケート調査に関する集計報告書を労組・各政党、婦人団体、関係行政機関に配布して、開発教育に関する実態の報告を行ない参考に資するようつとめた。

Ⅱ. 事業計画（一九九一年度）

1. 一九九一年度セミナーに参画する。

2. その他婦人の地位向上のための諸活動を行なう。

Ⅲ. 委　員（一九九〇年度）

津森都留子　中村　道子
若井　綾子　保科　達子
寿里　孝子　野口　敏子

社会福祉委員会　野崎　方子

Ⅰ. 事業報告（一九九〇年度）

1. 社会福祉奨学金の贈呈（第二〇回）

本年度の奨学生について、慎重審査の結果、理事会の承認を経て二名が決定した。人間としてどう生きて行くかということに、幼い時より常に正面からしっかりと取り組んで来たこの二人の学生の、その目標に向って行くひたむきな思いは、いかにも清々しく何か大きなものと一体になっている様に感じられ、その姿勢は私共の心を深くゆさぶり選考しながらかえって多くのものを学んだ思いであった。

社会福祉奨学生　二名（会報160号掲載）

2. 前年度作成の調査報告書「障害者の就職と職業生活－障害者（四年制大学卒業生）の生活環境調査より－」五〇〇部のうち、三〇〇部を総会出席者会員と各支部に、二〇部を本部保存用とし、一八〇部を官庁、福祉学校連盟、図書館、福祉関係団体、マスコミ、政党、婦人団体その他に七月上旬に配布し、障害者の就職・職業生活の実態を知ることによって、社会福祉を私達全体の問題としてとらえてゆく輪の広がりの為の活動を行った。

Ⅱ. 事業計画（一九九一年度）

1. 社会福祉奨学金の贈呈（第二一回）五名

2. 高齢化社会とセミナーのテーマ「環境と開発」（予定）を社会福祉の視点から考察する。

Ⅲ. 委　員（一九九〇年度）

新谷　弘子　豊倉　桂子
白井　典子　内藤美登里
野崎　方子

報道委員会　牛頭栄子

Ⅰ. 事業報告

1. 会報「JAUW」発行（年四回）

本年度の会の事業と活動を編集・報道

一五八号（一〇頁）一九九〇年六月二〇日　各支部宛送付

一五九号（四頁）一九九〇年一〇月三一日　会員宛送付

一六〇号（六頁）一九九一年二月一日　各支部宛送付

一六一号（二頁）一九九一年三月一日　会員宛送付

2. 委員会四回（七月、一一月、二月、三月）

Ⅱ. 事業計画

1. 会の活動を編集、報道の他、会員相互の情報交換

2. 会報「JAUW」発行（年四回）

一六二号～一六五号（一六三号、一六五号は会員宛送付）

Ⅲ. 委　員

浅羽ヒデ子　内野　良
尾上　夏子　村田　翠
牛頭　栄子

会員委員会　吉武勇子

Ⅰ. 事業報告（一九九〇年度）

1. 会員の現状把握

(1) 会員数、新入会員、退会者、物故会員の確認

(2) 会員カードの整備

(3) 会員動静ノート（入会、退会、移動、海外移動、逝去等を記載）、および会員動静一覧表の整備

(4) 新規購入パソコンに入力するための準備として、従来の台帳を整備

2. 会費納入の推進

(1) 一二月一〇日、会費未納者一覧表を各支部長に送付し、会費納入を依頼した。

(2) 会費納入依頼の記事を会報一六〇号、一六一号に掲載した。

3. 会員増加に関する活動

(1) 一九九〇年四月に理事、監事および全国支部長に、リーフレットならびに入会に関する書類を配布し、会員の勧誘を依頼した。第三三回通常総会、東京支部総会、一九九〇年度全国セミナー・フォーラムにてリーフレットを配布した。

(2) 二月に各大学関係者を通じて、大学新卒者へのリーフレット配布ならびに入会勧誘を依頼した。

4. 会報に新入会員の名簿を掲載

Ⅱ. 事業計画（一九九一年度）

1. 会員の現状把握

(1) 会員数、新入会員、退会者、物故会員の確認

(2) 会員カード、会員動静ノートおよび会員動静一覧表の整備

(3) 新規購入パソコンに入力を開始

2. 高齢者会員の扱いについて検討、処理する。

3. 会員増加に関する活動（各機会にリーフレット配布・入会勧誘に努める）

4. 支部との連絡を密にする。

Ⅲ. 委　員（一九九〇年度）

今村みね子　江口　昌子
駒木三枝子　庄子　ヨシ
住友千代子　副島　芳子
仲町　和子　藤崎千代子
吉武　勇子

御　礼

一九九一年四月二日、広島全日空ホテルで行われた総会の席上での募金額は一二六、六五六円でした。ご協力を感謝いたします。

国内奨学委員長　蝦島　康子
財務委員長　五十嵐康子

新入会員（19名）1991年1月20日～4月13日

東京支部
市川　文子（実）　145　大田区上池台3－4－4
小山　幸子（東女・大阪院）　177　練馬区上石神井1－7－21
坂本　敬子（大女）　157　世田谷区上祖師谷1－7－5
柴　佳世乃（茶）　171　豊島区池袋3－24－10　ドミ池田206
高林　益江（津）　223　横浜市港北区下田町1－1－1－812
西山　鈴子（大女）　111　台東区雷門1－6－5－505

神戸支部
市岡　周子（京女）　651　神戸市中央区坂口通6－2－6
長浜　道子（神女）　665　宝塚市千種1－13－18
花房　登美（京女）　675－12　加古川市八幡町中西条930－10
米本　洋子（熊女）　651－12　神戸市北区花山台20－25

岡山支部
石井　設子（岡山）　701－12　岡山市一宮20－7
木村　俊江（津）　702　岡山市三浜町2－13－2
辻本和紀子（津）　700　岡山市当新田59－7

広島支部
木原　朋子（エリザベト音）730　広島市中区千田町1－5－17　五島ビル202
高坪冨美子（日女）　737　呉市阿賀中央5－10－35－301

山口支部
森重　昌子（日女）　755　宇部市常藤町4－34－406

大分支部
丸山　静子（福女）　870－11　大分市宗方台北6－14
若杉　順子（奈女）　870　大分市中央町2－2－15

福岡支部
大渕美智子（福女）　814－01　福岡市城南区七隈5－18－32

一九九〇年度 支部報告

小樽支部

山口　浪

会員数　十六名
支部会費　二、〇〇〇円
Ⅰ．事業報告（一九九〇年度）
三月一一日　支部総会（於ヴィネ）
一九八九年度事業報告・会計決算報告
一九九〇年度事業計画・予算審議承認
役員の承認
支部長　山口　浪
副支部長　堀岡怜子
庶務　坂田知子
　　早見紀子
会計　高橋瑞子
　　渡辺貞子
会計監査　小林俊子
事業計画は例年通り実施
国連協力事業緑一本運動協力
四月二〇日　小樽市婦人大会に会員有志参加（於日専連ビル）
講演「おたるの女よ」
講師　岩坂桂二氏
六月七日　橋本会員お別れ会と支部会（於新松島）
今年度事業の具体的検討
七月五日　国内奨学生推薦依頼（小樽商大、北海道薬大）
七月二〇日　レクリエーション　札幌植物園見学とお食事の会（於札幌車屋）　参加者一〇名
八月三〇日　奨学金獲得事業ダンスパーティーの第一回打合せ（於アシェット）
九月二三日　小林俊子会員詩集「ためいき橋」ご出版お祝いの会　（於小樽グランドホテル・杉の目）
一〇月二五日　ダンスパーティー第二回打合せ（於アシェット）
役割分担など
読書会の課題図書を神谷美恵子著「こころの旅」と決める。
一〇月二六日　北海道・東北・関東甲信越地区婦人問題推進地域会議に高橋、渡辺会員出席。（於札幌・北海道新聞ホール）
一〇月二七日　北の国際女性会議に高橋会員以下四名参加（於同上）
一一月二七日　小樽市婦人大会記念講演会に会員四名出席（於日専連ビル）
一一月三〇日　読書会とダンスパーティーの景品包装（於吉田会員宅）
一二月一六日　奨学金のためのダンスパーティ（於エンペラー）
一月一〇日　新年会
ダンスパーティー反省会（於ニュー三幸）
一月十五日　小樽市の成人式に小樽婦人団体連絡協議会の一団体としてお手伝いに二名出席
一月二三日　樽婦連新年会
三名出席（於勤労婦人センター）
二月七日　支部会（於アシェット）
今年度奨学生選考について
総会のための準備
二月一二日　早見会員送別会、その著「日々の名残」全会員に寄贈あり
二月一七日　奨学金贈呈式（於ローラレサン）奨学生　真田真佐子（小樽商大三回生）氏に五〇、〇〇〇円贈呈
三月一二日　小樽女子短大卒業式吉田出席
Ⅱ．事業計画（一九九一年度）
三月一七日　一九九一年度総会
新役員決定
予算報告、会計決算報告
予算計画、予算案審議
新役員の承認と新委員長の紹介
五月一九日　第一回役員会（以下毎月一回開催）
六月一二日　第一回例会
ガーナの開発問題
講師　アイザック　メンサ　ポンス氏
八月四日　第二回例会
懇親会と花火見物　尾崎宅にて
一〇月一二日　第三回例会
開発と教育
講師　アニル　パンガンティ氏（インド）
一一月一〇日　第四回例会
異文化と言葉
講師　中川かずこ氏
一二月一日　関文子会員叙勲祝賀会
一月二六日　新年会
本部に代り奨学金を贈呈
道都大学　長沢修子さん
北海道大学　加藤早苗さん
二月一五日　第五回例会
ギリシャ文化とヘブライ文化　講師　高久眞一氏
Ⅱ．各委員会の活動
1．報道委員会
第一回例会担当
年五回ミニニュース発行
2．財務委員会
第二回例会担当
古典輪読会　参加者一一名（会員七名）
かな書道　参加者二四名（会員一〇名）
3．国際委員会
第三回例会担当
4．婦人の地位委員会
第四会例会担当
5．企画委員会
第五回例会担当
英語論読会　参加者四五名（会員六名）
Ⅲ．事業計画（一九九一年度）
各委員会担当による例会
英語輪読会・かな書道・古典輪読会の継続
ミニニュースの発行
その他は四月の支部総会にて協議

秋田支部

金野　和子

会員数七二名
支部会費　一、五〇〇円
Ⅰ．事業報告（一九九〇年度）
四月一日　JAUW第三三回総会　金野支部長
橋本、小貴、藤原出席
五月二六日　秋田支部総会
於杉のや
六月三日　秋田市クリーンアップ作戦参加　小貴、金森、那波、古谷参加
七月六日　親睦の夕べ　於ターミナルホテル
九月八日　支部研修セミナー　於生涯学習センター
「発展途上国とのかかわりを考える」
九月二九・三〇日　全国セミナー　於京王プラザホテル
金野支部長、橋本、三浦、小松、稲村、那波出席
秋田支部の開発教育の試み－BFUWとのペアリング経験を基にして－を全国フォーラムで発表
一一月二八日　施設訪問
特別養護老人ホーム光峰苑奉仕
一月二〇日　支部新年会
於第一会館本館
CCWA国際精神里親運動部へ一名分送金
BFUW（バングラデシュ）との交流
九月八日　文部省委嘱一九九〇年度婦人の社会参加支援特別推進事業として婦人研修セミナー「発展途上国とのかかわりを考える」を開催　於県生涯学習センター
講演「発展途上国の現実と私達の課題」秋田経済法科大学助教授　佐渡友哲氏
「市民による海外協力の現実から」シャプラニール＝市民による海外協力の会　長畑　誠氏
一一月一六・一七日　秋田県婦人生活祭でバザー・シャプラニールの協力を得て、バングラデシュの手工芸品のバザーを行なう。収益金はBFUWへ
・その他
三月一三日　市クリーンアップ作戦連絡協議会
那波出席　五月一九日、一一月七日
四月一三日　県婦人団体協議会例会　那波出席　五月二四日、九月一七日、一〇月二三日、一一月一五日、一月一一日
四月二九日　市クリーンアップ作戦行事　サケの稚魚放流　千葉、小松、三浦出席
五月九日　婦人週間記念講演・秋田婦人会議　於市文化会館小ホール
五月一七日　市婦人団体連絡協議会役員会　那波出席　六月一三日施設見学
七月二五日、八月二〇・二七日、九月三日、一〇月二二日、一一月一九・二七日、一二月一七日、一月二一日
五月二九日　県貯蓄推進委員会総会　於キャッスルホテル　沢口出席
六月二八日　県婦人問題中央会議　於平安閣　三浦、沢口出席
七月二七日　婦人問題地域セミナー　於五城目町
佐藤（雅）、小玉、那波出席
九月二二日　国際交流ふれあいフェスティバル　於アトリオン音楽ホール
橋本、佐藤（嘉）、那波出席
一〇月二一日　施設の子供とおやつを作る会　於婦人会館　長谷山、金森、那波出席
一〇月二四日　あきた婦人問題男女フォーラム　於県児童会館　金野、小泉、小松、照井、沢口、那波出席
一一月一一日　大森山少年の家運営協議会　小畑出席
一一月一六・一七日　県婦人生活祭　於婦人会館
支部のあゆみ展示　バングラデシュ民芸品バザー
一二月一一日　県国際交流をすすめる婦人の会「クリスマスパーティー」橋本出席
二月二一日　暮らしを考える婦人の集い　於県生涯学習センター
Ⅱ．事業計画（一九九一年度）
1．支部総会
2．市クリーンアップ作戦参加
3．親睦会
4．研修会
5．老人ホーム奉仕
6．新年会
7．入学祝金授与
8．国際交流をすすめる（CCWAの継続、バングラデシュとの交流及び他の交流団体への協力等）
9．他団体への協力
10．不用品即売
11．その他　婦人生活祭への展示参加

仙台支部

大脇　静枝

会員数　一二名
Ⅰ．事業報告（一九九〇年度）
六月二二日　宮城県各種婦人団体連絡協議会総会
五名出席
七月一二日　日帰り研修－秋保の整肢拓桃園見学と慰問及び工芸の里
八月六日　国際交流－各国の料理実習と試食、日本文化紹介（茶道）在仙の外国人女性一二名（韓国、中国、タイ、パナマ、メキシコ、ペルー各国二名ずつ）と協議、会員三六名参加
九月二〇日　一泊研修　山形県予定のところ、台風のため中止
一一月一七日　レディスフェア　県庁講堂　本間宮城県知事の講演
一一月二二日　一泊研修
山形県天竜市
二三日　山形市遊学館で隣県の山形県と福島県の婦人会代表との懇談会
一月二九日　宮城県婦人大会（愛知、飯岡、小野、大脇出席）
Ⅱ．事業計画（一九九一年度）
一九九〇年度とだいたい同じ

福島支部

関口　富左

会員数　一九名
支部会費　二、〇〇〇円
Ⅰ．事業報告（一九九〇年度）
四月一日　社団法人大学婦人協会第三三回通常総会出席　於新潟市　ホテル新潟
四月二三日　教養講座聴講
演題「食生活と健康」
講師　郡山女子大学教授　農学博士　金田尚志先生
於郡山女子大学建学記念講堂
五月二五日　池田雄彦ヴァイオリンリサイタル鑑賞
於郡山女子大学建学記念講堂
六月二三日　一九九〇年度支部総会　於郡山女子大学会議室
七月一一日　映画「天と地と」鑑賞　於郡山女子大学建学記念講堂
七月二四日　福島支部第一回講演会開催　演題「健康と美しさ」講師　郡山女子大学教授　農学博士
斉藤洋子先生　於郡山開成学園つつじ館
一〇月三日　前進座公演「五重の塔」鑑賞　於郡山女子大学建学記念講堂
一一月一日　レターナ・スコットソプラノリサイタル鑑賞　於郡山女子大学
一二月八日　福島支部第二回講演会開催
演題「生活文化の中のエッセンス－伝承芸術（茶道・華道）と現代生活－」講師　太田昭子先生（宗偏流茶道教授・龍生派華道教授　茶名宗昭・花名夏雲）於郡山開成学園つつじ館
一二月一一日　三遊亭円楽独演会鑑賞　於郡山女子大学建学記念講堂
Ⅱ．事業計画（一九九一年度）
1．第三四回大学婦人協会支部長会及び総会出席
2．文化活動（郡山女子大学主催の教養講座・芸術鑑賞講座に参加、及び自主講演会開催）
3．留学生との交流会開催
4．会員増加活動
5．支部総会開催
6．その他必要に応じて会を開催する。

新潟支部

豊島　千代

会員数　九五名
支部会費　二、〇〇〇円
Ⅰ．事業報告（一九九〇年度）
三月三一～四月一日　第三三回通常総会を新潟市、ホテル新潟にて開催
四月五日　第三三回通常総会反省総務会
四月一二日　県主催、米イリノイ州トンプソン知事来県記念講演会　一〇名出席
四月一七日　役員会、人材名簿提出を要請する。支部活性化の工夫と支部総会の準備
四月二八日　支部総会　一九八九年度事業決算報告、一九九〇年度事業計画、予算審議、全国総会反省　セミナー、学習、財務、親睦の四部会発足
於中央公民館　出席者七三名（委任状を含む）
五月二六日　勉強会　「国際交流」　発表者　豊島、高橋、関　於中央公民館　出席者一五名
六月五日　県商工労働部労政課主催「女性と職業を考えるシンポジウム」参加
六月一八日　役員会　本年度セミナーの支部テーマを決定する。「新潟県の学校教育における開発教育の実態」　於中央公民館　役員九名のうち八名出席
六月二三日　例会　四部会のチーフ、サブチーフを決定し、活動を開始
七月六日　人材名簿九名を県庁、市役所に提出
七月一三日　セミナー部会、第一回打ち合わせ
出席者七名
七月二八日　例会　四部会それぞれ活動状況報告
於中央公民館　出席者二〇名
八月八日　第二回セミナー部会　以後九月末まで数回討議、作業を行なう。
九月二二日　例会　全国セミナー（国庫補助事業）における発表の概要と研究討議　於中央公民館
出席者二一名　財務部約一〇万円を奨学賞を贈る会基金に寄付
九月二九・三〇日　全国セミナー・FRESH SUPPORTに六名参加
発表者　関妙子
一〇月七日　親睦部計画による遠足「良寛さまの里と寺泊市場」二〇名参加
一〇月九日　県国際交流課主催　国際作文コンクールに会員、高橋節子が優秀賞を受ける。
一〇月一三日　財団法人新潟県国際交流協会（理事長　金子清知事）設立祝賀会に支部長出席
一一月九日　新聞、新潟日報の社説「地域市民を育てる開発教育」で新潟支部のまとめた調査が評価された。
一一月二四日　学習部第一回の計画で全国セミナー参加者五名が報告を行なう。　於中央公民館　出席者二三名
一一月二九日　新潟大学教育学部学生、石塚一美
国内奨学生として授賞されるとの決定通知を受ける。
一二月一日　親睦部計画による忘年会　於東急インしゃぶ禅　出席者二六名
一二月一七日　役員会　奨学賞を贈る会の準備　全員出席
一月六日　役員会　同右
同右
一月二六日　第四一回奨学賞を贈る会　於新潟電力ビル・ホール　受賞者
大学女子学生二名、女子短大生二名、女子高校生二〇名　出席者約一〇〇名
二月二三日　学習部第二回計画　講演会　講師　真島明子氏（新潟市議会議員国際ビジネスコンサルタント社長）
三月一六日　今年度事業反省会
他団体事業への参加及び協力
・県婦人団体連絡協議会（会長　小林美代子会員）（一二団体加盟）
・県消費者協会（会長、大井ヒデ会員）
・市消費者協会（会長、市原キヨ会員）
・にいがた女性会議
いずれも会員が指導的役割を果している。
Ⅱ．事業計画（一九九一年度）
1．前年度からの継続事業の実施
総会、例会、役員会、本部セミナーに参加、奨学賞を贈る会
2．他団体事業への協力
3．その他

茨城支部

岡山　初子

会員数　八三名
Ⅰ．事業報告（一九九〇年度）
三月三一日　大学婦人協会評議員会　懇親会
四月一日　第三三回大学婦人協会通常総会　支部長他一名　出席
四月一八日、五月二日・一六日、六月六日・二〇日、九月五日・一九日の七回例年どうり「源氏物語講座」春季開講　講師　会員佐藤せつ　受講生六四名
四月二一日　支部総会、元支部長　吉岡綾子氏米寿祝賀会
五月二三日　役員会　セミナーの方向づけ
六月二六日　支部例会　セミナーの方向づけ
七月二五日　支部例会「バングラデシュの実情」講話とスライド
講師　馬上美恵子氏（元青年海外協力隊隊員）
八月二一日　役員会　支部セミナーについて協議
九月五日　役員会　支部セミナーについて協議
九月二二日　支部セミナー
水戸市　サンレイク水戸「もっと知りましょう身近な国々を」
講演「開発教育について」
講師　筑波大教授　佐藤守弘氏
パネルディスカッション
コーディネイター　筑波大学教授　佐藤守弘氏
パネラー　茨城新聞総務局長　安　猛美氏
アジア教育基金を支える会長　中井紀子氏
茨城大学外国人講師　王為民氏
九月二九日・九月三〇日
全国セミナー　発表　松本
支部長岡山、静間、保田、内田、鴈野参加
一〇月一七日～三月二〇日
毎月第三水曜日　六回
「源氏物語講座」新講座開講
講師　佐藤せつ　受講生八〇名
一二月五日　茨城県立農業高校　見学会
一月一〇日　講座「茨城の歴史と民族」
二月二日　新年会、水戸市西洋堂

（次頁へつづく）

（前頁よりつづく）

（吉岡綾子氏米寿祝い出版「遙かなる道」出版記念会を併せて）
他団体と共催
四月四日　茨城県婦人団体連盟総会　一四構成団体の一団体として協力
六月二〇日　「消費問題を考えるつどい」　水戸市茨城県婦人会館
最近耳寄りな消費問題
講師　県消費生活センター課長　木村翼氏
六月二二日・二三日　地域からの国際化　茨城県立婦人教育会館
講話　講師　日立市国際友好協会代表吉田丈夫氏
講演　「日常生活における異文化の衝突と同化」
講師　筑波大学社会科学系外国人研究者　陳立行氏
六月二八日　第一七回茨城県消費者大会　県民文化センター　大ホール
七月一日　「第二一回心身障害児・高齢者福祉のためのバザー」
収益金二、五八〇千円を九施設に贈呈　水戸市茨城県婦人会館
七月三日・四日　連盟リーダー研修会　県立婦人教育会館　一泊二日
七月一一日　婦人会館顧問米寿祝賀会　京成ホテル
九月一八日　「消費問題を考えるつどい」　世界の経済動向と私達の暮らし
日本銀行水戸事務所長　高宗貢氏
一二月三日・四日　地域からの国際化セミナー
講話「わが国の国際化」
ロザンヌ・カーン氏（アメリカ）
王為民氏（中国）
ゴータム・ショーム氏（バングラデシュ）
講演と指導
ERIC代表　吉田新一郎氏（国際理解教育資料情報センター）
一二月八日　連盟大会　西暦二〇〇〇年に向けて婦人団体連盟のつどい
講演「いばらぎ女性プラン策定に参画して」
講師　弁護士　野中邦子氏
発表「男女共同参加型社会をめざして」
参　加
四月二一日　第四二回「婦人週間のつどい」参加
八月三日　県内水源地見学会に参加
一〇月二〇日　茨城県婦人教育会館　会館まつりに参加
Ⅱ．事業計画（一九九一年度）
1、四月二七日　総会
2、定例会を奇数月第四土曜日に開く。
3、支部会報の発行
4、本部セミナーに参加する。
5、第二二回心身障害児・高齢者福祉のためのバザー開催の予定
6、茨城県婦人団体連盟の構成団体としてその事業に協力する。
7、地域からの国際化セミナーを二回開催、調査研究する。
8、古典講座「源氏物語」を春秋六回ずつ開講する。
9、講座「茨城の歴史と民俗」を前後期各六回開講する。

栃木支部

遠藤　ミサ

会員数　四二名
支部会費　一、〇〇〇円
Ⅰ．事業報告（一九九〇年度）
三月三一日　JAUW支部長会・評議員会出席
四月一日　JAUW第三三回通常総会　支部長出席
五月一六日　宇都宮市「婦人のつどい」常任委員として今後約一〇回出席
五月二八日　役員会
六月一八日　支部総会
(1)　一九八九年度事業報告　会計報告
(2)　事業計画（一九九〇年度）
・奨学制度の推進（ダンスパーティ開催）
・「古典をよむ」再開
・全国セミナー参加　研究発表
・盲人への朗読奉仕
・その他地域婦人団体との協力
六月二二日　「地域に開かれた大学づくり推進会議」　宇都宮市　出席
八月六日　アジア学院訪問
九月四日　アジア学院訪問
九月一七日　第一回「古典をよむ」再開、
講師　山本　昭氏「源氏物語」
九月二〇日　役員会　・研究発表の準備
九月二九日　全国セミナー　五名出席
九月三〇日　研究発表　アジア学院について
一〇月一五日　第二回「古典をよむ」役員会
一〇月二〇日　ダンスパーティ
一一月一九日　第三回「古典をよむ」　奨学生の選考会　六名決定
一二月八日　奨学賞贈呈式
作新学院にてセミナー報告
二月四日　新年会「しおの」懐石料理
二月一六日　宇都宮市「女性のつどい」司会、遠藤
外六名出席
二月一八日　第四回「古典をよむ」
二月「地域に開かれた…」…」委員会出席
Ⅱ．事業計画（一九九一年度）
一九九〇年度とほぼ同様の予定

群馬支部

北爪江美子

会員数　三六名
支部会費　一、〇〇〇円
Ⅰ．事業報告（一九九〇年度）
三月三一日　大学婦人協会支部長会、評議員会
四月一日　第三三回大学婦人協会通常総会出席
四月～一九九一年一月　アグネス・アグリアさん（パプアニューギニア国留学生）池本やよひ会員宅にてホームステイ、家政学を学ぶ。
四月一四日　支部役員会
第一回全国セミナー小委員会
五月一九日　群馬支部総会
・一九八九年度事業報告
・一九九〇年度事業計画
・その他
六月五日　「百人一首に学ぶ」－成人学校－有志参加
講師　徳田美栄子会員
六月一四日　女性リーダー養成講座（群馬県主催）二名参加（一〇月まで合計五回開催）
六月三〇日　全国セミナー小委員会　テーマ　群馬県における国際理解教育の現状　研究内容　国際理解教育の現状ならびに、それに関する人々の意識・行動調査　学校における交流教育の実践
七月七日　国際交流集会「アグネスさんをまねいて七夕祭りをしよう」群馬支部主催で、前橋市立上川渕小学校において開く。
七月一四日　全国セミナー小委員会　アンケート項目検討　発表者決定（北爪江美子）
八月一〇日　全国セミナー小委員会　アンケート結果集計　分析、考察
八月二三日　全国セミナー小委員会　発表原稿検討
講話「短歌の漢訳詩と作歌要諦」講師　徳田美栄子会員
八月二五日　清心幼稚園創立九五周年記念音楽会－西独・ウルム市立児童青少年合唱団による－に支部として協力
九月一日　全国セミナー発表資料作成
九月二九日　全国セミナー参加、発表
九月二九・三〇日　婦人と国際交流を考える講演とシンポジウム　有志参加
九月三〇日　女性フォーラム参加
一〇月八日　講演「変わりゆく生活設計」－群馬町公民館－　有志参加
講師　池本やよひ会員
一二月六日　支部役員会、セミナー報告会
二月二日　支部新年会
Ⅱ．事業計画（一九九一年度）
例年の通り、来年度支部総会で決定の予定

長野支部

三石千代子

会員数　二三名
支部会費　一、〇〇〇円（当日会費別負担）
Ⅰ．事業報告（一九九〇年度）
四月二八日　支部総会
・第三三会通常総会についての報告
・本年度の事業計画（学習と親睦）
・支部関係名簿配付等の諸連絡
・留学生との懇談（開発教育の一環として）信州大学教育学部留学生　許明賓さん、傅麗珠さんに自国の実状、留学生としての要望などを聴く。
・英会話レッスン
・役員会　事業計画に基く具体的実施について話し合う。
六月三〇日　例会
・支部事務局よりの連絡
・英会話レッスン並に英文履歴書について学習
・講演「薬の流通経路及び薬の用い方について」京都薬科大学非常勤講師　西村良美氏
・役員会　次回高原での例会の計画
九月八日　例会　班尾高原サン・クゼールにて
・支部事務局より連絡、フォーラム出席について
・開発教育について支部会員より意見聴取
・会食　欧風田舎料理
・英会話レッスン
・ワイン生産工場など見学
一二月一日　例会
・報告　全国セミナー、全国フォーラムについて
・講演「生涯学習における英会話学習その二」信大LL教室にて　信州大学教授　渡辺時夫氏
・役員会　次回新年会、次期役員について
一月二六日　例会　支部新年会
・会食　懇親
・英会話レッスン並に英文履歴書について
・第三四回通常総会出席について
・次年度についての計画
三月九日　例会予定
Ⅱ．事業計画（一九九一年度）
目標
会員の学習と親睦
学習は昨年に引きつづき国内、外の諸問題に眼を向け、国際開発の学習、英会話レッスンなどの積み重ねにより、国際社会、経済社会への理解と視野を広げる。
具体的な計画は支部総会において決定の予定

東京支部

金子　京子

会員数　七六〇名
支部会費　二、〇〇〇円
Ⅰ．事業報告（一九九〇年度）
四月一日　JAUW第三三回総会　於新潟市（ホテル新潟）有志出席
四月二一日　東京支部総会　於国立教育会館　記念講演「明日を見つめて－福祉と教育を考える」
講師　横須賀キリスト教社会館館長　日本ソシアルワーカー協会会長　阿部志郎氏
四月二八日　国外奨学生を囲む会（国外奨学委員会と共催）於主婦会館　有志出席
五月八日　一九九〇年度セミナーへ向けての勉強会シリーズ　第一回
講師　国連大学事務局長　伊勢桃代氏　於東京都婦人情報センター
五月一二日　神奈川支部講演会　有志出席
五月一五日　一九九〇年度セミナーへ向けての勉強会シリーズ　第二回　講師　学習院大学教授　波多野里望氏　於東京都婦人情報センター　レクチュア&コンサート「オペラってなあに」　会員主催　於音楽の友ホール　有志出席
六月二二日　東京証券取引所と山種美術館見学
七月一日　支部会報「ともしび」第八号発行
七月二日　坂井千春ピアノリサイタル　於（上野文化会館）有志出席
七月二四日　講演「女性と開発教育」－婦人団体活動と開発問題－（婦人の地位委員会主催）　講師　田中由美子氏　於東京都婦人情報センター　有志出席
九月一日　セミナー企画・実行合同委員会　実行委員出席　於ストラーダ新宿
九月二七日　セミナー実行委員会　於大学婦人協会事務所　実行委員出席
九月二九～九月三〇日　JAUWセミナーに参加　於京王プラザホテル　研究発表及び実行委員協力
一〇月一六日　江戸川区めぐり　バス・遊覧船ツアー（財務委員会主催）有志出席
一〇月二〇日　神奈川支部講演会　有志出席
一一月一七日　セミナー反省会　於ストラーダ新宿　実行委員出席
一一月二八日　講演「二一世紀に向けて真の国際化とは」　講師　評論家　小中陽太郎氏　於国立教育会館
一二月一七日　「婦人参政権獲得四五周年記念集会」　於婦選会館　有志出席
一月一九日　国内奨学金贈呈式（国内奨学委員会・社会福祉委員会と共催）
講演「生体内のホルモンの役割」講師　東京女子医大教授　野本照子氏　於国立教育会館
一月二一日　JAUW新春のつどい合同打合わせ会　支部委員数名出席　於大学婦人協会事務所
一月二六日　JAUW新春のつどい（本部主催）於高輪京急ホテル　有志出席
二月一日　支部会報「ともしび」第九号発行
二月一九日　講座「浮世絵・版画」第一回　於東京都婦人情報センター
三月一二日　講座「浮世絵・版画」第二回　於東京都婦人情報センター
三月二六日　講座「浮世絵・版画」第三回　於アダチ版画研究所　講師　浮世絵・版画研究家　鈴木重三氏
定例会
委員会：毎月第二水曜日　於事務所
俳句会：毎月第一月曜日　於事務所
読書会：毎月第二火曜日　於事務所
社会奉仕
年末寄付：社会福祉法人愛隣会、留学生相談室へ
使用済み切手の寄贈：中野自立センターへ
Ⅱ．事業計画（一九九一年度）
四月二日　JAUW第三四回総会　於広島市（広島全日空ホテル）有志出席
四月二〇日　東京支部総会　於国立教育会館　記念講演　講師　赤松良子氏
五月　鎌倉（氏家コレクション他）見学
七月　支部会報「ともしび」第一〇号発行
九月　JAUW全国セミナーへの参加
一一月　奥多摩（吉川英治記念館・川合玉堂美術館）見学
定例会、社会奉仕、その他詳細は支部総会にて決定する。

神奈川支部

房野　桂

会員数　五二名
支部会費　一、〇〇〇円
Ⅰ．事業報告（一九九〇年度）
四月一日　JAUW第三三回総会　於新潟市　二名出席
四月八日　「支部だより」発送
四月二〇日　支部会計監査
四月二二日　かながわ女性会議総会　於県立婦人総合センター　一名出席
五月八日　東京支部主催伊勢桃代氏講演会　於都情報センター　一名出席
五月一二日　神奈川支部総会・講演会・ミニバザー於横浜女性フォーラム
一九八九年度事業報告
一九八九年度決算報告
支部会員名簿配布
Virginia Gildersleeve International Fund for Univesity Women Inc.への寄付集め
役員改選　講演「開発援助とその問題点」　講師　木全ミツ（前国連日本政府代表公使）
五月一四日　「支部だより」発送
五月一五日　東京支部主催波多野里望氏講演会　於都情報センター　一名出席
五月一八日　労働省主催婦人週間全国会議　二名出席
五月三一日　かながわ女性会議国際部会　於県政総合センター　一名出席
六月八日　経済広報センター主催あじさいフォーラム　五名出席
六月二三日　支部例会・会員報告会・ミニバザー
議事　セミナー研究発表について　報告会「シンガポールを訪ねて」　佐藤小枝子副支部長　「JAUW神奈川支部の歴史について」　松本喜美子会員
六月二六日　「支部だより」発送
六月二七日　セミナー研究発表小委員会　於横浜女性フォーラム
六月二八～七月二五日　セミナー研究発表のためのアンケート発送と回収
高等学校訪問
七月二〇日　かながわ女性会議国際部会　於県政総合センター　一名出席
七月三一日　「支部だより」発送
八月一一日　セミナー研究発表小委員会　神奈川国際交流協会、教育委員会、県渉外部国際交流課訪問
八月一二日　セミナー研究発表小委員会　県教育センター訪問
八月二二日　セミナー研究発表小委員会　於横浜女性フォーラム
八月二五日　第八回開発教育全国研究集会　於宇都宮市　一名出席
八月二八日　かながわ女性会議国際部会　於県政総合センター　二名出席
八月二九日　セミナー研究発表小委員会　於横浜女性フォーラム
九月一日　支部例会・アンケート集計結果を話合う会・ミニバザー　於横浜女性フォーラム
ゲスト　長沢　勲（横浜YMCA）、荻村哲朗（神奈川国際交流協会）、生地陽（県立霧が丘高等学校）
九月一四日　「支部だより」発送
九月一七日　かながわ女性会議国際部会　於県政総合センター　一名出席
九月二九日～三〇日　JAUWセミナー・フォーラム　於京王プラザホテル
一〇月二〇日　講演会・ミニバザー　於横浜女性フォーラム　講演「開発と女性－バングラデシュの農村から－」　講師　吉田志郎（国際協力事業団　国際協力総合研修所）
一〇月二九日　かながわ女性会議国際部会　於県政総合センター　支部長報告「神奈川県高等学校における開発教育の実態とJAUWセミナー・フォーラムについて」
一一月五日　支部長逗子市審議会協議会等検討委員会学識経験委員に任命され、第一回委員会に出席　於逗子市役所
一一月一三日　「支部だより」発送
一一月一七日　CAW日本会議オープンフォーラム　於中退金ホール　一名出席
一一月二八日　第二回逗子市審議会協議会等検討委員会　於逗子市役所　支部長出席
一二月二日　支部例会・ミニバザー　於横浜女性フォーラム　議事　支部例会のありかた、日時、場所について　来年度全国セミナー支部発表について
一二月一七日　「支部だより」発送
一二月二八日　支部例会・ミニバザー　於横浜女性フォーラム　議事　二月の観梅の会について　製紙工場見学について　ヴィデオ鑑賞「隣の仲間たち」CCWA製作　「水を求めて」UNICEF製作
一月二一日　「支部だより」発送
一月二六日　JAUW新春のつどい　於高輪京急ホテル　一名出席
一月二八日　かながわ女性会議国際部会　於神奈川自治会館　一名出席
一月二九日　第五回逗子市審議会協議会等検討委員会　於逗子市役所　支部長出席
二月二三日　かながわ女性会議　国際女性フォーラム　於県立婦人総合センター　支部長　分科会の司会を行なう
二月二四日　支部観梅の会　於隣花苑・三渓園　三〇数名出席（東京支部会員を含む）

（次頁へつづく）

(前頁よりつづく)

二月二六日　第六回逗子市審議会協議会等検討委員会　於逗子市役所　支部長出席
三月四日　「支部だより」発送
三月一二日　第七回逗子市審議会協議会等検討委員会　於逗子市役所　支部長出席
三月一六日　支部例会・セミナー研究発表勉強会・ミニバザー
三月二二日　「支部だより」発送

Ⅱ．事業計画（一九九一年度）

四月一日　JAUW総会に出席
四月一一日　セミナーのための勉強会
五月二五日　製紙工場見学　於富士市本州製紙再生紙工場
　全国セミナーでは、「紙」について研究発表を行う。その他は支部例会で決定する。

静岡支部

庄司由美子

会員数　七四名
支部会費　二、〇〇〇円

Ⅰ．事業報告（一九九〇年度）

四月一日　第三三回通常総会に出席
四月二一日　支部総会
(1)一九八九年度　事業報告・会計報告
(2)第三三回通常総会報告
(3)一九九〇年度　事業計画検討
(4)記録映画「いのち果てるとも　ペスタロッチの生涯と思想」の鑑賞会を開催
四月二八日　第一回全国セミナー準備会
　テーマを「体験者から学ぶ海外開発教育の実態」とし、発表者を沢田鈴代会員に決定した。海外開発活動を体験したことのある方を講師にした三回の講演会を含み、学習会を九回なった。その他に体験者を訪問し、聞き取りを二回行った。
七月一〇日　県婦人協会による県内視察に五名参加
九月一五日　県老人福祉施設協議会より、感謝状を受ける。
　「楽寿の園」（特別養護老人施設）への奉仕活動に対して
九月二九日　全国セミナー一六名参加　沢田鈴代会員が支部代表として研究発表
九月三〇日　全国フォーラム一五名参加
一〇月二五日　懇親バス旅行　北澤美術館とマリー・ローランサン美術館
二八名参加
一一月九日～一〇日　県婦人協会による県外視察に一名参加
一一月二四日　講演会を主催「既製服のサイズについて」
　河村房代会員を講師とし、講演後は講師を中心に話しあいをした。
一月一八日　県婦人のつどいに二五名参加
一月一九日　支部新年会
二七名参加
対外活動・その他
県婦人協会に所属
県婦人団体連絡協議会に参加
県婦人海外派遣団に夏目智子会員が参加
「楽寿の園」（特別養護老人施設）への奉仕　年五回
役員会（隔月）

Ⅱ．事業計画（一九九一年度）

四月二日　第三四回通常総会に出席
四月二〇日　支部総会
以後の具体的な計画は支部総会で決定するが、おおむね一九九〇年度に準ずる予定

愛知支部

三輪ふさ子

会員数　七五名
支部会費　一、五〇〇円

Ⅰ．事業報告（一九九〇年度）

四月一日　JAUW第三三回総会（於新潟市）に支部長三輪ふさ子、林恭子、中根たか子、庄司ミナ子出席
四月二三日　支部総会
総会成立確認
八九年度報告
総会、事業、決算、監査
第三三回通常総会（新潟市）報告
議事　支部役員推薦
九〇年度計画案、予算案ほか
六月一〇日　第一回例会
講演：「女性と開発教育」
講師：名古屋大学名誉教授・愛知学院大学教授　田浦武雄氏
出席者一六名
七月八日　第二回例会
講演：「女性と開発教育」
講師：医学博士　元名古屋大学長・同大学名誉教授　飯島宗一氏
出席者四〇名
九月二日　第三回例会
講演：「高齢者の暮らし方について」
講師：ヒューマンライフサービス　藤森洵子氏
出席者：一六名
九月二九日～三〇日
　全国セミナーに支部長三輪ふさ子、小谷野錦子、林恭子出席、小谷野錦子、林恭子発表
一〇月一三日～一四日　バスツアー　静岡ゆうゆうの里老人センターならびに掛川の葛織を見物　出席者一五名
十二月二日　講演：「発癌のしくみ・環境因子との関連」
講師：愛知県がんセンター研究所生化学部室長　多田万里子博士
二月三日　新年宴会（レストラン　エスエス）
ラテンアメリカ音楽（南米インディオの音楽）をききながらメキシコ料理を頂く会
楽団名：グルーポ・マリュウ
三月一〇日　一九九〇年度大学婦人協会国内奨学生としての奨学金受賞者より講演を聞く会
受賞者は以下の通り
名古屋大学　理学研究科生　板倉美奈氏
名古屋市立大学　薬学研究科生　安井医学賞受賞者　五藤由起子氏

Ⅱ．事業計画（一九九一年度）

四月一日　第三四回通常総会（於広島）に出席
四月二八日　支部総会
講演「環境問題」
講師：大津洋子氏
海外滞在体験をもつ女性の会（ALOE）の元会長
環境問題に関する講演四回～六回

岐阜支部

松井　恵美

会員数　一一名
支部会費　二、〇〇〇円

Ⅰ．事業報告（一九九〇年度）

七月六日　役員会
七月九日　会報等発送
七月二一日　一九九〇年度支部総会　於岐阜県婦人会館
一〇月二〇日　役員会
一二月一日　勉強会　於岐阜県婦人会館　出席者九名
講師　ジン・ルーロン氏（タイ国出身・大学英語講師・米国人カート・ルーロン氏夫人）
　演題「タイ国社会の現状」英語で講演・会員からの質問も活発に出て、タイ国の経済・生活・教育・文化などについて興味深いお話をうかがえた。
二月九日　役員会
三月上旬　親睦会を予定

Ⅱ．事業計画（一九九一年度）

六月頃　支部総会
一一月頃　勉強会
二月頃　親睦会

金沢支部

北村　幸子

会員数　三六名
支部会費　二、〇〇〇円

Ⅰ．事業報告（一九九〇年度）

四月一日　JAUW　第三三回総会に代表二名出席
四月二一日　研究会「東西ドイツの統一をめぐって」
講師　金沢大学教授　村田武氏
五月三〇日　研究会「ポーランドの現状と将来」
講師　ワルシャワ工科大学教授　ヴィエツビッキー氏
六月四日　役員会　支部総会の打合せ
七月一日　支部総会　昨年度の行事・会計報告を承認、一九九〇年度の行事・予算案を審議、可決、その後、昼食をとりながら懇談
七月九日　役員会　秋の行事について打合せ
八月四日　タイ、ドゥアン・プラティープ財団へ寄付金を贈る。
九月二一日　ソ連ウラジオストック市から足の手術のため金沢大学付属病院へ来たエフゲニイ君へ支援金を贈ったほか、一一月一六日の帰国まで労力奉仕などの支援活動を続けた。
九月二九日　全国セミナーに代表二名出席
九月三〇日　全国フォーラムに代表一名出席
一〇月二一日　日帰り旅行　大聖寺の江沼神社、長流亭、実性院等を見学、福井支部からも参加された。
一二月一日　研究会「精神障害者の社会復帰のための施設について」
講師　金沢大学助教授　林正男氏と施設で奉仕活動を続けている二人のボランティア女性
一二月三日　支部会員から集めた寄付金を、石川県精神薄弱者育成会、石川県肢体不自由児協会、石川県更生保護婦人連合会の三団体に年末寄付として贈る。
一二月一二日　金沢国際交流財団主催の国際交流関係団体連絡会に代表出席
二月一七日　新年会　シティモンドホテル、石川県内在住の外国婦人三名を招き懇談の予定

Ⅱ．事業計画（一九九一年度）

四月一日　JAUW第三四回総会に代表出席
四月　研究会　国際情勢について学ぶ。
六月　研究会　環境保全の問題について学ぶ。
七月初旬　支部総会
九月　日帰り旅行
一一月　研究会　社会福祉の問題について学ぶ。
一二月　年末寄付金を募り、三団体ほど選んで贈る。
　新年会　県内在住の外国婦人を招き懇談

福井支部

木村　温美

会員数　二一名
支部会費　一、〇〇〇円

Ⅰ．事業報告（一九九〇年度）

四月一日　支部総会
　会員の都合がつかず、今年度は会合をもつことが出来なかった。
　会員一名が転勤のため今年度限りで退会した。

Ⅱ．事業計画（一九九一年度）

　なるべく早い時期に会合をもち、今後の方針をはかりたい。

京都支部

伊藤　洋子

会員数　一〇八名
支部会費　一、〇〇〇円

Ⅰ．事業報告（一九九〇年度）

A．支部総会
四月一四日
第一部
第三三回通常総会（於新潟）の報告、支部の一九八九年度事業・会計・会員異動の報告、会計監査報告、一九九〇年度事業計画案協議など
第二部
講演「みのりの生理」―スライド使用―葛西善三郎氏（京都大学名誉教授）
B．支部例会と座談会
六月三〇日
講演「地球環境時代」―スライド使用―末石冨太郎氏（大阪大学教授）（P．Pと共催）
八月二二日
座談会（伏見地区集会）
「開発教育について―アンケート結果を基に―」
九月八日
講演「開発教育について」松澤員子氏（国立民族学博物館教授）（P．P．と共催）
一一月一七日
講演「茶道のみりょく」野口栄子氏（会員）
一月二六日　新年懇親会・茶会・ミニバザー
二月二三日　座談会「本年度をかえりみて」
C．全国フォーラム関係
五月八日、二五日、六月五日、一五日、二六日、七月六日、二〇日、八月一〇日、二一日
勉強会・アンケート作成・発送・集計・討論
八月二一日　京都市衛生局環境保全室環境計画課に資料・情報収集
九月四日　京都南清掃工場・京都環境保全公社・ユニチカ環境技術センター見学
九月二九・三〇日　全国セミナー・全国フォーラムに八名参加
報告「開発教育への意識と実践」
　高橋千夏氏
D．その他
六月一日　「平成二年第一回女性団体懇話会」（京都府女性青少年室主催）に副支部長出席
一〇月一三日　「KYOのあけぼのフェスティバル90」（京都府・KYOのあけぼのフェスティバル実行委員会主催）に支部長出席
四月三日、五日　Mrs. Laycook市内観光・会食
一〇月二七日　Dr.Poskitt国立京都国際会館見学・会食・能観賞

Ⅱ．事業計画（一九九一年度）

四月一三日　支部総会・役員改選
講演「宋代の日中交流」衣川　強氏（京都工芸繊維大学教授）
七月一四日
講演「第三世界の人口問題について」
講師　荻野美穂氏
七月二一日　講演「中国の市民生活」
講師　高　偉民
九月二六日　バスツアー「堺の町に利休の旧蹟を訪ねて」
九月二九日・三〇日　一九九〇年度全国セミナー参加
一〇月二七日
講演「最近の中東情勢について」
講師　山野春彦（毎日新聞社経済部長）
一〇月二四日
講演　「ニュージーランドの大学と女性の地位」
講師　Edwina Palmer
ロンドン大学東洋アフリカ学院大学地理学専攻博士号修得
外国人研究者として、現在奈良女子大地理学科において「日本古代の風土記の英訳についての研究」
一二月一五日
講演　「―万国博覧会今昔―」
講師　相川佳予子氏（奈良女子大家政学部教授）
二月九日　一九九〇年度大学婦人協会国内奨学金授与記念報告会
二月二三日
講演　「有識故実のあれこれ」
講師　杉本一樹氏（正倉院事務官）
三月二日　奈良県主催・奈良県婦人問題啓発推進協議会協力事業に参加、「あたらしい絆　女と男」のテーマで開催される「トークプラザ」に協力

奈良支部

三浦毅美子

会員数　九〇名
支部会費　一、〇〇〇円

Ⅰ．事業報告（一九九〇年度）

四月二一日　奈良支部総会
第三三回JAUW通常総会（於新潟）の報告、支部の一九八九年度事業・会計・会計監査報告、一九九〇年度の事業計画案などの協議
講演　演題「仏足跡の歌」
講師　薬師寺副住職　松久保　秀胤師
五月一九日
講演「気功を通じて見た中国の文化」
講師　徐　暁薇氏（奈良女子大理学部修士学生）
通訳　高　偉民（奈良教育大教育学部国語国文学修士課程）
六月二日　役員会　セミナー参加についての協議
三月下旬　役員会開催予定

Ⅱ．事業計画（一九九一年度）

支部総会を四月二八日に開催、一九九一年度の事業内容を決定する。

大阪支部

岩堂美智子

会員数　一二〇名
支部会費　二、〇〇〇円

Ⅰ．事業報告（一九九〇年度）

四月二一日　支部総会（於レストラン・ウムウム）
　1昨年度の事業報告・会計報告
　2新役員および今年度予算案の承認
　3　全国総会報告
五月二三日　座談会「インドの文化と生活」（於梅田・アショカ）
　話題提供：ミセス　レディ、ミセス　カマラ、山口由季子氏、北村春江氏、浅野暁枝氏
◇拡大役員会「新役員の任務分担と今年度の例会のテーマについて」（於大阪市立大学文化交流センター）
六月三〇日
講演会「アジア・アフリカに井戸を贈る運動」―アジア協会の活動について―（於市立婦人会館）
講師：前田裕子氏（社団法人アジア協会・アジア友の会所属）
◇拡大役員会「全国セミナーにむけての取り組みについて」（於同上）
七月二八日
講演会「モロッコの社会福祉」（於府立婦人会館）
講師：桑原洋子氏（龍谷大学教授）
◇拡大役員会「1全国セミナー取り組み状況　2支部内規改正について」（於同右）
七月三〇日　セミナー報告作成会議（於大阪市立大学）
八月一八日
講演会「東南アジアから来た女性たち」―からゆきさんとジャパゆきさん―（於なにわ会館）
講師：水野阿修羅氏（アジアン・フレンド事務局長）
◇学習会「開発教育アンケート結果について」（於同右）
八月一九日　特別例会
見学「美浜原子力発電所」（福井県美浜町）
八月二〇日・二一日・二七日　セミナー報告作成会議（於大阪市立大学）
九月三日・一二日・一四日・二一日・二五日　セミナー報告作成会議（於同右）
九月二九日―三〇日　本部主催全国セミナー参加（於京王プラザホテル）
一〇月六日
講演会「商社マンの見た中国―天安門事件の評価をめぐって―（於市立婦人会館）
講師　：田中忠仁氏（三菱商事ｋｋ中国担当副部長）
◇企画委員会「一二月・一月・二月・三月・の例会運営について」
一〇月二八日　内規改正委員会「支部内規改正について」（於府立婦人会館）
一一月七日　「てん刻」講座（於市立婦人会館）
講演と指導：載山青（タイサンチン）氏（古代文学研究家）
一二月二日　懇親会（忘年会）（於なにわ会館）
ゲスト：ウーナル博士（トルコからの国外奨学研究者）とその御友人のヤルシン博士（在日トルコ女性研究者）
歌唱指導：高寺範子氏（合唱団「沙羅」所属）
二月一六日
講演会「フェミニストセラピイ　イン　フリーク」（於フリーク）
講師：北山れい子氏（カウンセラー）
三月一一日　役員会「1今年度活動総括　2次年度役員体制について」（於大阪市立大学文化交流センター）
三月二三日　実習「フェミニストセラピイの実際」（於府立婦人会館）
指導：北山れい子氏（カウンセラー）
☆九月二〇日　大阪大学に短期留学中のウーナル博士（トルコ大学婦人協会会員）に国外奨学金の一部を贈呈。
☆一〇月二一日　ウーナル博士とミーティング、トルコ大学婦人協会・アンタリア支部と大阪支部の活動および女性研究者の現状について情報交換
☆十二月十五日　ウーナル博士の大阪の研究・教育施設視察（大阪府立大学付属研究所放射線部門および堺市立庭代台小学校）に同行
☆一月二十八日　吉村由美子氏（大阪大学大学院生）に国内奨学賞状および奨学金を贈呈

Ⅱ．事業計画（一九九一年度）

（次頁へつづく）

平成２年度国庫補助事業

「開　発　教　育」特別会計収支決算報告

特別会計　五十嵐康子、八木博子、井口美登利

（単位：円）

収入の部 区分	予算額	決算額	備考
国庫補助金	950,000	950,000	
協会支出金	1,915,500	1,759,164	
セミナー参加費	480,000	592,500	3,000円*197名 1,500円*1名(学生)
懇親会費	1,100,000	1,460,000	10,000円*146名
銀行利息	1,000	10,731	
計	4,446,500	4,772,395	

支出の部	科目	予算額	決算額	備考
補助対象経費	謝金	450,000	380,633	セミナー講師1名、支部講師16名 委員会調査協力者10名
	旅費	832,500	667,900	講師、リポーター、支部長、企画委員、実行委員
	借損料	165,000	183,074	セミナー会場費、合同委員会会場費、支部会場費
	消耗品費	70,000	79,299	書籍、カセットテープ、電池、事務用品、ワープロ用紙・リボン他
	印刷製本費	780,000	899,693	セミナー要項、プログラム、封筒、資料等
	通信運搬費	310,000	251,040	セミナー要項、プログラム、資料の送料、支部・委員会の連絡等
	会議費	330,000	296,344	セミナー・コーヒーブレイク、支部・委員会の会議費等
	賃金	200,000	175,050	アンケート集計、調査資料整理、作成、発送等のアルバイト
	雑役務費	200,000	174,606	コピー料金
	小計	3,337,500	3,107,639	
その他	会議費	1,100,000	1,460,000	懇親会費
	会場費	0	200,000	セミナー会場費補助
	雑役務費	9,000	4,756	銀行・郵便振込手数料
	小計	1,100,000	1,664,756	
	計	4,446,500	4,772,395	

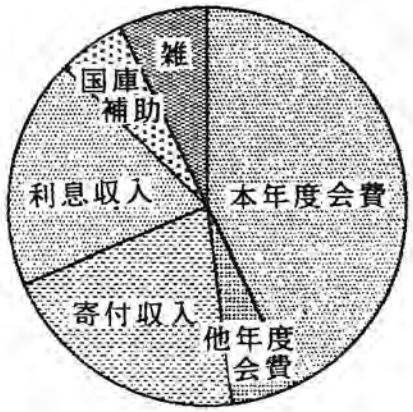
・特別会計収支報告について
セミナー参加費、懇親会費、銀行利息等は直接特別会計で扱ったもので、本部会計には含まれません。
支出のうち、９支部の調査研究費は1,090,009円。２委員会の調査研究費は416,782円でした。
ご協力くださった支部、委員会に改めて感謝いたします。

○上記の収支決算報告について異義のある方は7月末までに会長までお申出ください。
○監査報告　監査の結果、収入・支出ともにすべて正しく記帳され、間違いのないことを証します。

平成３年４月13日

監事　岡山初子
〃　馬場八巻

支出総額	19,086,007
本年度会費	7,216,000
他年度会費	912,000
寄付収入	3,464,665
利息収入	3,164,864
国庫補助	950,000
雑収入	1,213,980



1990年度支出総額に対応する収入の内訳を百分比で示しました。

平成２年度文部省委嘱

婦人の社会参加支援特別推進事業

「女性と開発教育」収支決算報告

収入の部

項目	決算額
国庫支出金	4,000,000円
銀行等預金利息	22,830円
計	4,022,830円

支出の部

項目	決算額
諸謝金	703,633円
旅費	370,095円
消耗品費	87,601円
印刷製本費	1,567,883円
通信運搬費	472,668円
会議費	385,484円
借料及び損料	435,466円
計	4,022,830円

1990年度　社団法人 大学婦人協会収支決算報告書及び貸借対照表

収支計算書

(1990年4月1日から1991年3月31日まで)

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
Ⅰ 収入の部				
1 基本財産運用収入	6,070,000	6,644,933	＋ 574,933	
基金口座利息				
事業基金利息	2,300,000	2,644,751	＋ 344,751	
ホームズ基金利息	120,000	129,371	＋ 9,371	
国際奨学金基金利息	3,650,000	3,870,811	＋ 220,811	
2 入会金収入	160,000	115,000	－ 45,000	
入会金	160,000	115,000	－ 45,000	115名
3 会費収入	8,150,000	8,278,000	＋ 128,000	
正会員会費収入	8,000,000	8,128,000	＋ 128,000	2,032口
賛助会員会費収入	150,000	150,000		6名　30口
4 補助金収入	1,395,000	950,000	－ 445,000	
国庫補助金収入	1,395,000	950,000	－ 445,000	
5 寄付金収入	2,600,000	3,464,665	＋ 864,665	
会員その他寄付	2,600,000	3,464,665	＋ 864,665	
6 雑収入	1,958,000	2,002,322	＋ 44,322	
受取利息				
運用財産利息	350,000	390,742	＋ 40,742	
審査手数料収入	0	0		
広告料収入	700,000	500,000	－ 200,000	
総会参加費	450,000	603,000	＋ 153,000	¥3,000×
雑収入				201名
分担金	408,000	397,600	－ 10,400	
名簿・私用電話他	50,000	110,980	＋ 60,980	70部
当期収入合計 (A)	20,333,000	21,454,920	＋1,121,920	
前期繰越収支差額	10,176,832	10,176,832	0	
収入合計 (B)	30,509,832	31,631,752	＋1,121,920	

科目	予算額	決算額	差異	備考
Ⅱ 支出の部				
1 管理費	5,703,000	5,889,677	＋ 186,677	
給料・手当他				
給料・夏・冬手当	1,984,000	1,792,452	－ 191,548	
保険・退職引当金	349,000	418,377	＋ 69,377	
会議費				
総会費	1,700,000	2,126,602	＋ 426,602	
理事会費	60,000	56,679	－ 3,321	
役員選考委員会費	15,000	0	－ 15,000	
旅費交通費	140,000	140,780	＋ 780	
通信運搬費	300,000	250,968	－ 49,032	
什器備品費	200,000	80,294	－ 119,706	
消耗品費	420,000	615,451	＋ 195,451	
印刷製本費	70,000	66,950	－ 3,050	
負担金	150,000	154,080	＋ 4,080	
光熱水料金	90,000	93,585	＋ 3,585	
租税公課	45,000	40,500	－ 4,500	
事務所営繕引当金	80,000	0	－ 80,000	
雑費	100,000	52,959	－ 47,041	
2 事業費	14,150,000	10,830,566	－3,319,434	
国庫補助事業	3,650,000	2,709,164	－ 940,836	
奨学金				
国内奨学金	1,500,000	1,450,000	－ 50,000	
社会福祉奨学金	400,000	160,000	－ 240,000	
ホームズ奨学金	100,000	100,000		
国際奨学金	3,650,000	2,006,000	－1,644,000	
分担金				IFUW会費
IFUW・UWA会費	1,800,000	1,923,915	＋ 123,915	9SF×2,020名
IFUW関係連絡費	50,000	50,000		1SF＝105.5円
NGOその他	50,000	38,000	－ 12,000	
助成金				
IFUW寄付金	200,000	200,000		
支部振興費	300,000	76,000	－ 224,000	
各委員会活動費	900,000	620,768	－ 279,232	
印刷製本費				
会報発行	1,200,000	1,153,600	－ 46,400	4回分
通信運搬費	350,000	343,119	－ 6,881	
3 繰入金支出	200,000	2,200,000	＋2,000,000	
事業基金繰入	200,000	2,200,000	＋2,000,000	
4 予備費	280,000	165,764	－ 114,236	
予備金	280,000	165,764	－ 114,236	
当期支出合計 (C)	20,333,000	19,086,007	－1,246,993	
当期収支差額 (A)－(C)	0	2,368,913	＋2,368,913	
次期繰越収支差額 (B)－(C)	10,176,832	12,545,745	＋2,368,913	

貸借対照表

1991年3月31日現在　会計：八木博子・井口美登利

(単位：円)

科目	金額		
Ⅰ 資産の部			
1 流動資産			
現金	295,216		
普通預金	400,236		
定期預金	8,285,093		
郵便振替	85,944		
金銭信託	3,479,256		
流動資産合計		12,545,745	
2 固定資産			
基本財産			
事業基金	41,200,000		
ホームズ基金	2,000,000		
国際奨学基金	58,000,000		
基本財産合計	101,200,000		
その他の固定資産			
土地・建物	10,000,000		
什器・備品	500,000		
電話加入権	100,000		
その他の固定資産合計	10,600,000		
固定資産合計		111,800,000	
資産合計			124,345,745
Ⅱ 負債の部			
1 流動負債			
流動負債合計		0	
2 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			0
Ⅲ 正味財産の部			
正味財産			124,345,745
(うち基本財産)			(101,200,000)
負債及び正味財産合計			124,345,745

○上記の収支決算報告及び貸借対照表について異議のある方は7月末日までに会長までお申出下さい。

監査報告　監査の結果、収入、支出ともすべて正しく記帳されて間違いないことを証します。

1991年4月13日

監事　岡山初子・馬場八巻

（前頁よりつづく）

度）
四月一日・二日　全国総会参加予定
四月二〇日　支部総会予定
月例会の内容については、新支部長のもとで計画される予定

神戸支部　涌嶋　嫩

会員数　二五八名
支部会費　一、〇〇〇円
Ⅰ　事業報告（一九九〇年度）
四月一日　JAUW第三三回通常総会出席
四月二八日　支部総会　於芦屋市民会館
1、事業報告、会計報告
2、新年度事業計画、予算案承認
五月二六日　五月例会　芦屋市民会館
講演「アフリカの現状と課題」―教育の問題を中心に―
講師　サンガ・ンゴイ・カザディ氏（日本アフリカ友好協会長）
六月一三日　音楽会　ピアノリサイタル
会場　神戸文化ホール・中ホール（八〇七名）
演奏者　オレグ・マイセンベルグ氏
演目　モーツァルト　幻想曲ハ短調　K三九六
シューベルト　さすらい人幻想曲
ショパン　幻想曲へ短調作品四九
シューマン　幻想曲ハ長調　作品一七
七月二一日　七月例会　於芦屋市民会館
講演「韓国及びフィリッピンの教育事情と将来の展望」
留学生　韓国　田　恩仔氏　国語
フィリッピン　マリア・R・サバナル氏　数学
九月二一日　九月例会　於西宮夙川公民館
コーラス　二月の小音楽会にむけて有志で練習を始める
練習日　一〇月五日　一一月二日　一二月七日　一月九日　二月六日　二月二〇日　於芦屋青少年センター音楽室
指揮並びに指導　魚崎　静氏（PTAコーラス指揮者）
一〇月二五日　秋季バス旅行
岡山県、閑谷学校、牛窓、竹下夢二美術館、備前焼見学
一月二四日　一一月例会　於芦屋市民会館
講演「最近の相続事情」
講師　岸本洋子氏（弁護士、神戸家裁調停委員）
一月一三日～二〇日　オーストラリア大学婦人協会第二八回総会（於タスマニア）の開会式及びツアーに神戸支部から八名参加
一月一二日　一月例会　於神戸三宮勤労会館
「開発と教育」山邑敦子、蔵掛敦子、セミナー委員発表
講演「イラクをめぐる中近東情勢」
講師　佐藤巧二氏（元毎日新聞ニューヨーク支局長　中東特派員）
二月二三日　小音楽会　於芦屋ルナホール・小ホール
独唱　魚崎　静氏（大阪音大声楽科卒）
マンドリン演奏　恩地早苗氏（第二回全日本マンドリン独奏コンクール入賞、宝塚マンドリン合奏団主催）
コーラス　JAUW会員有志　親睦会
三月二〇日　三月例会　於芦屋市民会館
講演「激動するソ連・東欧」
講師　佐藤巧二氏（園田学園女子大講師）
◇一〇月二六日　Dr. エリザベード・ボスキート氏（イギリス　大学婦人協会副会長）が来神、姫路城を案内し、ポートピアホテルにて夕食会で歓迎
◇兵庫県婦人生活課主催、兵庫県婦人少年室主催、神戸国際交流協会主催の講演会、催物にその都度役員参加、婦人の地位向上に努める。月一回役員会
Ⅱ　事業計画（一九九一年度）
・講演を主とした月例会
・役員会、小役員会
・全国セミナー参加
・秋季バス見学旅行

岡山支部　西村　綏子

会員数　九一名
支部会費　二、〇〇〇円
Ⅰ　事業報告（一九九〇年度）
(1)支部総会及び例会
四月二八日　一九九〇年度支部総会　出席者二八名
1、一九八九年度・決算報告、監査報告
2、一九九〇年度事業計画、予算案、承認
3、第三三回全国通常総会報告
4、講演「ネグロス島の実態とネグロス・キャンペーン岡山の活動」
ネグロス・キャンペーン岡山　事務局長　鬼木のぞみ氏
六月一〇日　第一回例会
出席者一九名
講演「ネパールの女性」
岡山外語学院講師　フィビー・メアリー・レイブン氏
七月一四日　第二回例会
出席者二三名
講演「開発教育について」
岡山YMCA総主事　米良重徳氏
九月九日　第三回例会　参加者約五〇名
「開発教育を考える」パネルディスカッション
講師　岡山YMCA総主事　米良重徳氏
パネリスト　外国人留学生　二名
現地奉仕体験者　二名
一月二〇日　第四回例会
出席者三六名
新年親睦会
お客様として「外国人による日本語弁論大会」（一九九〇年一二月二日　大学婦人協会岡山支部主催行事）出場者を御招待して会食
三月一七日　第五回例会
講師　「はじめて見る中国」　前支部長　喜多島美枝子氏
(2)その他の支部行事
五月一八日　チャリティーバザー開催　あやめ会と共催
九月三〇日　一九九〇年全国セミナーにおいて発表
「婦人の社会参加支援特別推進事業」（フレッシュ・サポート）の地方支部として、上記の第三回例会のパネル・ディスカッションも含めた活動内容を発表
発表のための実行委員会（八回）
7／14、30　8／6、18、20、27　9／1、9
一二月二日　第七回「外国人による日本語弁論大会」
主催　大学婦人協会岡山支部、岡山国際交流プラザ
外国人発表者　一六人（一一カ国）聴衆　約三〇〇人
Ⅱ　事業計画（一九九一年度）
・講演を主とした月例会
・役員会、小委員会
・全国総会、セミナー参加
・チャリティーバザー、外国人による日本語弁論大会
・支部長及び役員改選
・環境問題の研究

広島支部　河石　禮子

会員数　四九名
支部会費　二、〇〇〇円
Ⅰ　事業報告（一九九〇年度）
四月六日　役員会
於広島市婦人教育会館
一五・〇〇～一八・〇〇
一九九〇年度　支部総会準備
一九九一年度　広島に於いて開催される全国総会について打合せ
四月一四日　一九九〇年度広島支部総会
於広島市婦人教育会館
一三・三〇～一七・三〇
報告事項
1　一九八九年度　広島支部事業報告
2　一九八九年度　広島支部会計報告
3　一九八九年度　広島支部会計監査報告
4　第三三回大学婦人協会通常総会（於新潟）出席者報告
5　第三四回大学婦人協会通常総会、広島で開催
協議事項
1　役員改選
2　一九九〇年度　広島支部事業計画
例年通り、例会は年四回とし、全国総会準備のため必要な会合は担当委員の招集があった場合、その都度開くこととする。テーマは「開発教育」とし、本年度から取り組む。新しいテーマなので、「開発教育」について、勉強会を重ねていくこととする。
また、一九九一年度の全国総会について、各例会毎に、その準備のための時間をとることとし、費用の捻出のため、昨年度より引続き、これも各例会毎にバザーを開くこととする。
3　一九九〇年度　予算案審議
4　全国総会について打合せ
六月七日　役員会
於広島市婦人教育会館
一四・〇〇～一八・〇〇
例会の担当委員とサブテーマを決める。
全国総会について打合せ
七月一四日　第一回例会
於広島市婦人教育会館
一三・三〇～一七・〇〇
テーマ―私の見たアジア―
広島県青年婦人派遣団、海外派遣に参加して
講師　中村慶子会員
全国総会準備打合せ
バザー
九月二九日・三〇日　全国セミナー参加（於東京）
一〇月二七日　第二回例会
於広島市婦人教育会館
一三・三〇～一七・〇〇
テーマ―アジアに触れ、アジアの女性たちと語り合う旅―
広島県海外女性派遣団に参加して
講師　末長昌子会員
バザー
一二月一五日　第三回例会
於広島市婦人教育会館
一三・三〇～一七・〇〇
一九九〇年度全国セミナー　"開発教育"と一九九〇年度全国フォーラム"女性と開発教育"について報告会　水間恵美子会員
全国総会準備打合せ
バザー
一二月二五、二六日、二七日
全国総会案内・申込書準備、各支部へ発送
一月二六日　第四回例会
於全日空ホテル
一五・〇〇～一七・三〇
全国総会準備打合せ会
新年懇親会　於全日空ホテル　一七・三〇～一九・三〇
一月一日　全国総会のため全日空ホテルと打合せ会予定
Ⅱ　事業計画
四月の支部総会で決定の予定

山口支部　中村　秀子

会員数　三〇名
支部会費　二、〇〇〇円
Ⅰ　事業報告（一九九〇年度）
四月一三日　講演会と座談会　宇部文化会館
講師　労働省婦人局長　佐藤ギン子氏
「これからの日本と女性の役割」
座談会　夕食会を兼ねて講師と意見交換
六月三日　県内在住外国人との交流会　山口県国際交流協会主催
昼食会　バザー　各国演芸大会
七月四日　国連本部講演会
山口県庁
講師　外務省国連局人権難民課長　角崎利夫氏
「最近の国際状勢」
八月三日　山口県NGO婦人団体会議　県庁
各婦人団体行事報告連絡協力協議会
八月二二日　JAUW山口支部総会　宇部国際ホテル
JAUWの地域に於ける活動等について討議研究
九月八日　日本ユネスコ運動全国大会に協力　山口県ユネスコ協会主催
特別記念講演　杉良太郎氏（俳優・国際識字年ユネスコ大使）
「国際識字年と私」
シンポジウム「二一世紀に向けて今私達の課題は？」
講師　石弘之朝日新聞社編集委員
菅野馨介読売新聞社編集委員
松本伸夫毎日新聞社編集委員
留学生とのつどい（中国・韓国・マレーシア）
九月二九日～三〇日　JAUWセミナー「開発教育」二名参加
一〇月二四日　国連デー記念行事　山口県庁
国際識字年展覧会
外国人による日本語スピーチコンテスト
一月六日　山口県婦人団体協議会　山口婦人会館
講義　山口婦人少年室長　西平茂子氏
「女子労働者をめぐる諸問題について」
来年度行事について打合せ協議会
一月三〇日　役員会　行事計画について相談会
二月二日　「グローバル山口親善大使委嘱状交付式」山口県国際交流協会委嘱状交付者　二四名（九ケ国）
クリスマス集会
一月一三日　「大英博物館展」見学　山口県立美術館
山口県選奨を受賞された中村支部長のお祝いの会
一月一六日　山口女性会議
山口県婦人会館
講演「私達のこれから―参加から参画へ」
講師　産経新聞社文化部次長　細見三重子氏
フォーラム
「あなたの意見　わたしの意見」
その他詳細は三月の役員会で決定

愛媛支部　太田万寿子

会員数　一名

高知支部　西山セイ子

会員数　一一名
支部会費　一、〇〇〇円
Ⅰ　事業報告（一九九〇年度）
四月二一日　支部定例会―国際化社会に伴い、高知に来て勉強している留学生から、日々思っていること、実際感じていることなど本音で話してもらう会を計画
七月七日　「留学生と語り合う会」
中国から高知大に来ている帰国子女の陳さん（日本名―鈴木ますみさん）から、日本に帰ってからの一家の生活・御自分の生活などについて話していただく。
Ⅱ　事業計画（一九九一年度）
未定
四月に開催予定の定例会で決定する。

大分支部　日野　ユリ

会員数　二六名
支部会費　二、〇〇〇円
Ⅰ　事業報告（一九九〇年度）
四月一日　第三三回総会（於新潟）支部出席者一名　宇都宮
四月一六日　役員会
・支部総会の打ち合わせ
・一九九〇年度事業計画、予算案
六月九日　大分支部総会
出席者一二名
場所　大分市コンパルホール二〇一号室
日程
一　講演会
一・三〇～三・〇〇
テーマ　「自然と人」について
講師　菊屋奈良義氏
イカリテクノス社長
二　総会　三・〇〇～四・三〇
ア　前年度事業報告、会計報告
イ　本年度事業計画、予算案
ウ　役員改選
支部長　日野ユリ
副支部長　浦田照　首藤田美子　井野邊陽子
会計
七月二七日　役員会
・一九九〇年度例会の期日決定
・一〇月六日、一二月八日、二月一六日
・第二回例会の打ち合わせ
九月二九日　全国セミナー「開発教育」於京王プ

（次頁へつづく）

古都の雅を、旬の味覚にたくして。
大志満
ホテルパシフィック 和食 大志満 ☎03(3445)6711 内線3911
ギンザコア店(ギンザコア9階) ☎03(3574)8080　横浜店(横浜ルミネ7階) ☎045(441)8080
ニューメルサ店(ニューメルサ8階) ☎03(3574)8081　花遠庵(横浜ルミネ7階) ☎045(453)6081
新宿店(小田急ハルク地階) ☎03(3348)8080　金沢店(金沢東急ホテル3階) ☎0762(63)5511

津田ホールのコンサート　主催：財団法人 津田塾会
津田ホール3周年記念コンサート
ハーゲン弦楽四重奏団
1991年10月31日(木) 7時開演　S：¥6,000　A：¥5,000
アルバン・ベルク弦楽四重奏団
1991年11月22日(金) 7時開演　S：¥8,000　A：¥7,000
3周年記念 津田ホール・スペシャル
市原多朗テノールリサイタル
1991年11月21日(木)
古澤 巌／弦楽四重奏の夜
1991年12月24日(火)
＊曲目・料金等は未定
3周年記念 協賛公演
塩川悠子(ヴァイオリン)＆遠山慶子(ピアノ)
デュオリサイタル
1991年10月8日(火)
主催：ミリオンコンサート協会 ☎03-3501-5638
シリーズ NADA Ⅵ (原田幸一郎、数住岸子ほか室内楽)
1991年11月28日(木)
主催：梶本音楽事務所 ☎03-3289-9999
詳細については、津田ホール☎03-3402-1851(協賛公演は各主催者)にお問合せください。

（前頁よりつづく）

ラザホテル
九月三〇日　全国フォーラム「女性と開発教育」
支部出席者　三名　日野、首藤、井野邊
一〇月六日　第二回例会
出席者一一名
場所　大分市コンパルホール三〇一号室
日程
一　講演会
一三・三〇～一五・三〇
テーマ　「ゆれ動く東欧社会と中国」
講師　日赤病院名誉院長　荒牧逸夫氏
二　諸連絡
一一月七日　役員会
・第三回例会の打ち合わせ
一一月二七日　役員会
・大分県国際交流センター訪問
・今後の支部行事について打ち合わせ
・第四回例会の打ち合わせ
一二月六日　国際交流ボランティア相談員研修会
出席者四名　日野、浦田、首藤、井野邊
講師「金沢を世界へひらく市民の会」　事務局長松田園子氏
一二月八日　第三回例会
出席者一一名
会席料理を食べる会　一三・三〇～一六・三〇
場所　別府市ホテルニューツルタ
一月一九日　みんなで考える国際理解講演会　出席者九名
場所　大分西鉄グランドホテル二階「舞鶴の間」
講師　サイマル・インターナショナル会長　村松増美氏
テーマ「異文化とのつきあい方」
主催　大分県国際交流センター、大分県、大分県教育委員会
一月二五日　おおいた女性プラン二一発表大会　出席者　日野
場所　大分県庁正庁ホール
内容　女性プランの発表
講演「人生のドラマ　新しいパートナー像をさぐる」
講師　放送作家・脚本家　早坂暁氏
二月一六日　第四会例会
場所　大分県国際交流センター会議室
講師　国際交流員ジェリー・デヴィアン氏
グランド・ガネル氏
内容　国際交流について懇談する。
Ⅱ　事業計画（一九九一年度）
例会は年四回の予定で、他団体主催であるが大学婦人協会の主旨に関係ある行事にはできるだけ参加する。研究問題については役員会で決定する。会員増加に努力する。

熊本支部

出井ヤスコ

会員数　四二名
支部会費　二、〇〇〇円
Ⅰ　事業報告（一九九〇年度）
四月一日　ＪＡＵＷ総会（於新潟）出席　支部長　出井
四月二八日　支部総会：於白川教会、前年度事業報告、会計報告、会員消息、三分間スピーチ、ナイジェリアとの交信交流の件、一九九三年総会熊本開催について
五月上旬　一九九五年ＩＦＵＷ大会日本開催決定についての通知が中村会長より届く。
五月一二日　例会・クリフ・モンテイン夫妻（米モンタナ州よりの交換教授）を囲んでの座談会「環境問題を考える」、本年度運営委員の決定（岩村、岩岡、池上、中村、出井）
五月一七日　運営委員会・本年度の行事と活動について、熊本総会の可能性について、ナイジェリアとの交信の担当決定（渡辺、馬場郁子、出井）
セミナーには報告者を送らないことに決定
六月四日　長谷川恭子さんを囲む会
六月三〇日　例会・熊本で総会の開催を引き受けることについて討議、結果として困難な点は多いが会員の努力で引き受けることになった。県内団体との協力事業について、国際協力団体・婦人団体・ボランティア団体等よりの印刷物配付
会員を活動の分野に分ける案が出る。
七月一四日　慈愛園（園長潮谷愛一氏）訪問・創立者パウラス氏の奉仕の精神にふれ、付属設備（乳児院・子供の家・デイサービスセンター・ショートステイ施設・ホームヘルパー制度・ケアハウス）等を園長の説明で見学
八月一日　例会と昼食会・於熊本市婦人総合会館
一九九三年総会を熊本で引き受けるに当たっての実行委員の選出（九名）、全国セミナーへの案内、各活動分野の希望調査の集計、退会者報告（藤田様、原口様、広野様）
新入会員紹介（高橋嘉子様）
八月一〇日　ナイジェリア・ミンナ支部の　Mrs. Lami Margaret Smith さんへ第一信を作成送付
九月二九日・三〇日　一九九〇全国セミナー：「開発教育」と「女性と開発教育」於京王プラザホテル　支部長　出井出席
一〇月六日　例会・全国セミナー報告、一九九三年総会実行委員会報告（会員の増加対策・バザーの開催・ホテルの予約報告・本部への引受け通知報告・市観光課との連絡報告）
一〇月九日　一九九三年総会実行委員会・全般的な話し合い、役割の一覧表作成、実行委員長＝高見多恵子　及び事務局長＝出井ヤスコ　以上二名を決定
一一月二五日　不要品バザー（「リビングくまもと」主催）売り上げ四五、六三〇円　内純益三三、五三五円
一二月一日　例会・一九九三年総会実行委員会報告、一月及び二月の予定について、各分野の活動状況について
一月二〇日　新年会・於「ドイツハウス」　趣味のキャンドル作り及び昼食会、会員交歓、広島総会の案内
一月二六日　ＪＡＵＷ新春の集い　於高輪京急ホテル出席　出井
二月一六日　例会・卓話とスライド（古庄健氏による「東欧平和使節団に参加して」）
本年度の反省
二月二二日　友枝ミチ会員（家庭裁判所調停委員）の受賞記念パーティ
Ⅱ．事業計画（一九九一年度）
例会は年四回とする。各分野別の活動を活発にし、そのための研修会をやる。
五月ごろ中国料理を作る会　於熊本市総合婦人会館
五月　中国留学生を迎える会
一九九三年の熊本総会に向けての準備を各方面で進める。地域とのつながりを大切にし出来るだけ参加する。会員の増加をはかる。

福岡支部

船津　桂江

会員数　六〇名
支部会費　二、〇〇〇円
Ⅰ　事業報告（一九九〇年度）
四月一日　第三三回通常総会　新潟会場へ支部長他一〇名出席する。
五月二四日　教育と開発を推進する民間団体である「オイスカ」西日本研修センターを支部長他一名で訪問する。
六月二日　支部総会を開催する。
・新旧役員交代挨拶
・一九八九年度の事業と会計報告
・新年度の行事予定の発表
・全国総会への出席者の報告
・中食祝賀会を催す。
六月一六日　全国セミナー研究テーマの打合せ（支部長宅にて三名）
六月二〇日　県教育委員会訪問、「開発教育」の資料や情報を調べる。
七月二日　久留米市中学校訪問（三名）「開発教育」の実態調査
七月四日　「開発教育」実態調査と資料集め
七月一六日　「開発教育」の実態調査と資料整理
七月二一日　例会
講師　オイスカ顧問　岩崎貞男先生
講演「オイスカの活動について」
九月二二日　例会
講師　東芝相談部室長　鈴木詔也先生
講演「ファジイと家電製品」
九月三〇日　大学婦人協会「一九九〇年度セミナー」本部主催」に、服巻洋子、大渕美智子両名参加する。
一〇月三日　支部長が福岡市女性センターのアミカスフォーラム実行委員となる。以後毎月一～二回実行委員会出席
一一月一〇日　会員、和栗静子氏、橋本真知子氏の米寿のお祝をガーデンパレスにて行なう。参加者多数で盛大であった。
一月二六日　例会
講演「中国の医療」
講師　医学博士　中垣充先生
二月一六、一七日　アミカス、フォーラムへ参加
テーマ「家族」
パネルディスカッション形成
三月一六日　例会
「湾岸戦争の舞台としての中東の社会と宗教」
西南大学教授　関谷定夫先生
その他
・福岡市婦人団体との交流として毎月第三水曜日「三水会」出席
・人材名簿を作成し各地方団体等に提出、会員の登用を要望する。
Ⅱ　事業計画（一九九一年度）
五月の支部総会に於て協議、決定の予定

長崎支部

玉木ますみ

会員数　（二八名）

鹿児島支部

小寺初世子

会員数　一二名

第28回オーストラリア大学婦人連盟総会開会式に出席して

神戸支部　廿楽幽香子

一九九一年一月一三日から二十一日まで、オーストラリアのタスマニア島のローンセストン市と州都ホバート市で行われた同国総会の開会式に、東京二、大阪一、神戸四の計七名（写真）が出席した。参加国は、オーストラリア、英、米、ニュージーランド、パプアニューギニア、フィジー、インドネシア、ヴァノアプ、日本であった。

この旅行の動機は、ＩＦＵＷヘルシンキ総会で、クイーンズランド州会長から神戸支部への提携申出があったことから始まり、彼地在住会員、レイデイ・スウエル・陽子氏の御盡力がおおきかった。

十四日午後二時現地到着、夕方迄会議場であるマリタイムカレッヂ（海抜大学）構内の見学、八時にヴィクトリア調の彫刻の美しい木造建築のアルバートホールの開会式に臨んだ。私共の席は最前列、壇上の日の丸が印象的だった。ローンセストン市長夫妻、各州代表、来賓方が坐し、テーマ「二十一世紀に於ける女性の権利と責任」に沿っての演説が続き、ＩＦＵＷ会長パーセル氏は各国会員の減少を憂え、若い会員の増加を願われた。そして来夏はスタンフォードで、一九九五年には日本での総会を期待している、と結ばれた。心温るレセプションに金管五重奏も奏でられ、白夜も暮れた十一時過ぎ涼しい夜風のなかホテルに戻った。

翌日から観光の旅、ローンセストンでは予定外の素晴しいラヴェンダーファームを、州都ホバートでは自然動物園で他地域では絶滅した珍鳥獣を、原住民アボリジニのこと、島の歴史を語る建造物等興味は尽きなかった。

それより本土へ渡り、メルボルンではフィリップ島のペンギンパレードに感激、キャンベラでは新計画都市の見学、就中、戦争記念館では先の大戦でシドニー湾で撃沈された日本潜水艦が飾られ、運命を共にした若人の後日談に一同涙した。（先日広島総会での江田島見学で、同型潜水艦や遺言が展示されているのに驚き再び感無量）。シドニーではランチクルーズ、ハーバーウオッチ等楽しい二日をすごした。

今回の旅は、第四日目メルボルンで湾岸開戦を知り、シドニーでは出航する軍艦を目撃する緊張感もあったが、一行は楽しい思い出に無事帰国出来て誠に幸いであった。

1991年度 大学婦人協会国内奨学生募集要項

Ⅰ　応募資格

（イ）一般奨学生　文部省の認可する大学（短期大学を除く）の学部第３学年に在籍する女子学生、あるいは大学院に１年以上在籍する女子学生で、人物・学業ともに優れた者。

（ロ）社会福祉奨学生　文部省の認可する大学（〔イ〕に同じ）の学部・大学院に在籍する女子学生で、身体に障害があり、かつ人物・学業ともに優れた者。

（ハ）安井医学奨学生　医学あるいは薬学などを専攻する修士課程２年以上の女子大学院学生であって、学業・人物とにも優れた者。本協会の会員であるか、または授与の時までに会員となること。

Ⅱ　奨学金支給額及び募集人員

（イ）一般奨学生	学部学生	1人	5万円	8名
	大学院学生	1人	10万円	8名
（ロ）社会福祉奨学生		1人	8万円	5名
（ハ）安井医学奨学生	大学院学生	1人	30万円	1名

（備考）応募状況により奨学生の人数に多少変更もあります。

Ⅲ　応募手続

応募希望者が東京都・千葉県・埼玉県内の大学から応募する場合は、所定の出願書類を所属大学の学長から直接本協会本部へ、またその他の地方の大学から応募する場合は、当該地方支部長宛に提出すること。

Ⅳ　提出書類

(1) 履歴書（写真貼付、自筆のこと）
(2) 大学婦人協会所定の奨学金交付調書（一般奨学生、社会福祉奨学生、安井医学奨学生別）
(3) 大学婦人協会所定の推薦状（推薦者は、在学する大学の学長・学部長・指導教員のいずれかであること）
(4) 在学する大学の交付する学業成績証明書
(5) 小論文（下記のそれぞれの課題を１２００字〔Ｂ５版４００字詰横書原稿用紙３枚〕以内にまとめること）
　一般奨学生：学部学生　自分の専攻分野と将来の希望について
　　大学院生　修士論文または博士論文の計画と将来の希望について
　社会福祉奨学生：自分の専攻分野と将来の希望について
　安井医学奨学生：自分の専攻分野と将来の展望について
(6) 健康診断書（さらに社会福祉奨学生は所定の身体障害調べを添えること）

Ⅴ　選考方法

支部長宛に提出された書類は支部会で選考して、２名以上の場合は順位をつけて本部に提出する。
本部においては、提出されたすべての書類を選考委員会で選考し、その結果を理事会にはかって決定する。
選考の結果は、推薦支部長、本人の在学する大学学長、および本人に通知する。

Ⅵ　出願締切日　１９９１年１０月８日(火)までに本部に書類を提出すること。（当日消印有効）

Ⅶ　その他

(1)贈呈式　１９９２年１月（日時は後日通知する）
(2)詳細については本部に照会のこと。

社団法人　大学婦人協会
会長　中村ミチコ
国内奨学委員長　鍛島康子
社会福祉委員長　野崎方子
〒160 東京都新宿区新宿７－17－18
戸山マンション241号
電話　03－3202－0572
ＦＡＸ　03－3202－0830